

荒神谷遺跡青銅器発見35周年記念

荒神谷青銅器フォーラム

銅剣出土の
謎に迫る!!
(358本)

荒神谷遺跡から弥生時代の銅剣が発見されて35年。
だれがなぜ埋めたのか、その謎はまだ解明されていない。
大量銅剣埋納は何を語るのか、最新の成果をもとに
研究者がその謎に迫ります。

2019 7.14 日

会場

開場:12:00~/開会:12:50/閉会予定:17:00
アクティーひかわ(多目的ホール)



出土した358本の銅剣



〈文化庁蔵〉

(写真提供:島根県立古代出雲歴史博物館)

(358本) 銅剣出土の謎に迫る!

オープニング	演目:「大地の鼓動」 出演:高須賀千江子(自然光ダンサー)
記念講演	演題:荒神谷遺跡銅剣発見35周年を振り返って 講師:藤岡大拙 (特定非営利活動法人出雲学研究所理事長)
報告(1)	テーマ:北部九州の青銅器と荒神谷青銅器群 ー特別展を通してー 発表者:柏谷実加(荒神谷博物館学芸主任)
報告(2)	テーマ:国宝銅剣の調査研究で何がわかったか 発表者:増田浩太(島根県立古代出雲歴史博物館専門学芸員)
基調講演	演題:九州と韓国の青銅器埋納から 見た荒神谷遺跡 講師:武末純一(福岡大学人文学部教授)
パネル ディスカッション	パネリスト:武末純一・増田浩太・柏谷実加 コーディネーター:松本岩雄 (島根県立八雲立つ風土記の丘所長) (敬称略)

出演者プロフィール (敬称略)

武末純一／たけすえ・じゅんいち
(福岡大学人文学部教授)



1950 年福岡市生まれ。九州大学大学院文学研究科修士課程修了(韓国・ソウル大学校大学院留学)。北九州市立歴史博物館、福岡大学助教授など歴任。九州古文化研究会代表、大分県文化財審議員など。

松本岩雄／まつもと・いわお
(島根県立八雲立つ風土記の丘所長)



1952年松江市生まれ。國學院大學文学部史学科卒業。専門/日本考古学(弥生・古墳時代)。島根県古代文化センター長、古代出雲歴史博物館学芸部長、教育庁文化財課長など歴任。荒神谷遺跡の発掘調査に携わる。

柏谷実加／かしわや・みか
(荒神谷博物館学芸主任)



1982年松江市生まれ。2015年より荒神谷博物館学芸員として勤務。魏志倭人伝シリーズとして、北部九州の弥生時代遺跡の特別展を担当し、他地域と荒神谷遺跡との比較検討を行う。

増田浩太／ますだ・こうた
(島根県立古代出雲歴史博物館専門学芸員)



1974年藤沢市生まれ。岡山大学文学部史学科卒業。専門/弥生青銅器。島根県古代文化センター研究員として古代出雲歴史博物館開館に携わる。荒神谷・加茂岩倉青銅器の担当として管理や調査研究に従事。

藤岡大拙／ふじおか・だいせつ
(特定非営利活動法人出雲学研究所理事長)



1932年斐川町生まれ。京都大学大学院文学研究科修士課程修了。八雲立つ風土記の丘所長、島根女子短期大学学長等を歴任。(公財)しまね文化振興財団理事長、松江歴史館館長兼務。

高須賀千江子／たかすか・ちえこ
(自然光ダンサー)



横浜市生まれ、出雲市在住。18歳よりダンスを始め東京・横浜を中心に数々の舞台に出演。2011年より「自然光ダンサー」として活動。振り付けの決まっていない即興で踊りで、その場の空気やエネルギーを感じて生まれる踊りを紡ぐ。ダンスカンパニー「スカーチエ」主宰。

基調講演

九州と韓国の青銅器埋納から見た荒神谷遺跡

武末純一

1. はじめに

- ・武末純一 2009「埋納銅矛論のいま」『もう一つの青銅器世界』(荒神谷博物館)から 10 年。
- ・考えの大枠はあまり変わらない。
- ・今回は九州だけでなく韓国の青銅器埋納の様相を加えて、村の中での土器・石器の埋納から青銅器埋納の展開をたどり、最後に荒神谷遺跡の銅矛埋納を考える。

2. 朝鮮半島青銅器の変遷と国の成立・展開

a) 無文土器と青銅器の変遷

- ・韓国での無文土器の編年
早期：湊沙里式土器(刻目突帯文土器)、前期：可楽洞式土器(前半)・欣岩里式(孔列文)土器(後半)、中期：休岩里式(直立口縁)土器(前半)・松菊里式(外反口縁)土器(後半)、後期：水石里式(円形粘土帯)土器(前半)・勒島式(三角形粘土帯)土器(後半)。
- ・韓国での青銅器の変遷
1 期：遼寧式銅剣の出現と展開、2 期：細形銅剣の出現、3 期：細形銅矛・銅戈がそろい中国式桃氏剣もまれにみられる、4 期：三韓瓦質土器や前漢鏡が伴う、5 期：後漢鏡が伴う。

このうち 3 期は次のように細分される。

3 期前半古段階：無文の細形銅剣・銅矛・銅戈(無文土器後期前半中段階)：九鳳里期

3 期前半新段階：無文の細形銅剣・銅矛・銅戈+鉄器(無文土器後期前半新段階)：南陽里期

3 期後半：有文の細形銅剣・銅矛・銅戈+鉄器(無文土器後期後半)：入室里期

※日本列島に本格的に細形青銅武器が登場するのは弥生時代前期末・中期初頭で、3 期前半新段階(南陽里期)である。そして、これらの朝鮮系青銅器(多鈕細文鏡と細形の剣・矛・戈)は国形成の手がかりになる。

b) 韓国での国の形成

- ・韓国では細形青銅武器やその前の遼寧式銅剣の多くは日常集落域からは出ず、ほとんどが墓の副葬品で、一部が祭祀埋納品。
- ・韓国の麗水半島では松菊里式土器段階の遼寧式銅剣が積良洞遺跡に集中し、その外の遺跡は 1 ～2 点しかなく、全く無い遺跡もある。
- ・紀元前 1 世紀の「夫租蔑君」(夫租という地域の濊族のキミ(王, 公)=首長)銀印出土墓(貞栢洞 1 号墓)には、細形の銅剣・銅矛が伴う。

c) なぜ国ができ、首長層が登場するのか

- ・朝鮮半島の無文土器時代や弥生時代以降の村は、大きくなる方向、増える方向で動く。農業は人が多いほど収穫量も多い。すべての村が拡大すれば衝突が起こる。
- ・また、それらの村は決して自給自足ではなく、海外からの金属器と権威・情報を得てはじめて成り立った。
- ・上記の理由から村を超えた国とそれを統率する首長層が生まれる。また農業は必然的に、農業をせずに「ただ食べるためにコメを食べる」聖なる人々を必要とする。

3. 韓国の青銅器埋納

- すでに後藤直 2000 で一度まとめられている。青銅器変遷での 1 期の遼寧式銅劍(禮田洞、草田面)から 5 期の細形銅劍・九州産の中広形銅戈(晩村洞)まであり、切っ先を東側に向けて並べた桃氏劍 26 点の大量埋納もある(完州上林里遺跡)。多くが村を離れた山の中腹などにあり、遼寧式銅劍段階ですでに国のマツリがあるとみられる。いっぽうで盈倉里遺跡では村の中のマツリで、2 ヶ所の土坑に細形銅劍を埋納した。
- 確実な埋納例の架浦洞遺跡では、馬山湾を見下ろす二つの大きな岩の間に、細形の銅劍・銅矛・銅戈と銅鉞を切断して差し込み埋納する。海上航海のマツリ。
- 韓国では多くの副葬青銅武器と一部の埋納青銅器に形態的な違いはなく、首長層のための聖なる器物。

4. 九州の弥生時代前半期での国の形成と土器・石器・青銅器の埋納

a)朝鮮系青銅武器と国形成

- 弥生時代の様相は前半期(早期～中期前半：紀元前 6・7 世紀～紀元前 2 世紀)と後半期(中期後半～後期：紀元前 1 世紀～紀元後 3 世紀前半)に大別して理解される。
- 弥生時代前半期の政治的首長層の出現を示す器物は古朝鮮の権威を示す朝鮮系青銅武器。取り扱いが韓国と同様で、それらを集中的にもつ人々はその地域で上位に立つ。
- 日本では前半期新段階に麗水半島と同様な現象がみられる(早良平野が典型的)。福岡市吉武遺跡では墓地も含めた全体の面積が 40 万㎡で、居住域は 10 万㎡を超える。墓地は 8 か所で、豊富な韓半島系青銅器を持つ高木地区、高木地区とほぼ同数の青銅器を持つが列状の大墓地群に吞みこまれる大石地区、30～40 基ほどの小群で副葬品を持たずに短期間で終わるその他の墓地群という階層序列を形成(遺跡構造)。
- 早良平野の中で見ると(地域構造)、この時期の青銅器は吉武遺跡に集中。ほかの拠点集落では多くは 1～2 点で居住域も 2～3 万㎡程度。ここに国の形成がはじまる。
- この時期の中心集落で保有する朝鮮系青銅武器の量と質は各地域であまり差がなく、居住域も 10～20 万㎡前後と等質的で、一斉に出現(世界構造)。これは国という地域政治組織が一斉にでき、しかも相互に実力の差がないことを示す。漢書の百余国体制はこの時期までさかのぼる。
- 早良国(吉武遺跡)、末盧国(宇木汲田遺跡)、耆岐国(原の辻遺跡)、奴国(板付遺跡)、佐賀平野東部(吉野ヶ里遺跡)、宗像地域(田熊石畑遺跡)
- 銅矛－銅戈－銅劍という青銅武器の序列も、すでに存在。
- この時期、三条節帯の銅矛の鋳型は佐賀平野、製品は玄界灘沿岸地域に限られる。したがってこの段階での国を超えた流通と、首長層相互のネットワークの存在がわかり、国々の政治的な連合体(初期筑紫政権)の原形もここまでさかのぼる。

b) 土器・石器・青銅器の埋納

- 韓国では松菊里式土器段階で東川洞遺跡に土器の埋納例がある。福岡県古賀市流遺跡では中期初頭の単位集団の住居や土坑が取り囲む中に、土器 2 点を埋納した小土坑があり、家のマツリとみられる。弥生時代前期後半から中期前半にかけて村のはずれで石斧や砥石を小土坑に埋納する(長崎県田平町里田原遺跡、福岡県小郡市一ノ口遺跡、佐賀県鳥栖市柚比遺跡大久保地区)村のマツリがみられる(森貴教 2010)。
- 村の中の中央の広場に多鈕細文鏡 2 点を甕に入れて小土坑に埋納した福岡県小郡市若山遺跡例も村のマツリで、首長層の墓に入るべき器物を埋納した点からみて、首長層がこうしたマツリ

を本格的に執行し始めたといえる。

- 沖ノ島で採集された、細形銅矛は、航海安全祭祀に使われ埋納されたとみられる。時期は勒島式期(無文土器時代後期後半)とみられ、弥生時代中期前半に相当する。沖ノ島の例のように、矛身部と袋部の境に左右 2 個ずつ突起もつ細形銅矛は韓半島東南部に多く、最近では蔚山市校洞里遺跡 1 号墓でも出土した。やはり勒島式期に属する。架浦洞遺跡も同時期とみられる。
- また、沖ノ島では旧社務所前の発掘で、後期無文土器がまとまって出ていたことが最近の再整理で明らかになった。勒島式が多い。

5. 九州の弥生時代後半期での国の展開と青銅器埋納

a)王墓の出現

- 漢王朝から認められた王(キミ)の存在の証拠は、福岡市志賀島発見の「漢委奴國王」金印である。
- 「漢の倭の奴国王」(「金印奴国王」とする)の墓は未発見だが、金印奴国王より半世紀以上も前の中期後半(紀元前 1 世紀後半)の奴国と伊都国の王墓が、福岡県春日市須玖岡本 D 地点(通称)の甕棺墓と福岡県前原市三雲南小路の 2 基の甕棺墓(福岡県 1985)である。これらは 30 面前後の中国の前漢鏡や天のシンボルである璧(ガラス製)をはじめ多くの副葬品を独占する。三雲・井原遺跡南小路 1 号甕棺墓の金銅製四葉座金具は木棺を装飾した飾金具で、東夷の王の証。東西 32m×南北 31m の正方形に近い墓域が溝に囲まれた墳丘墓(特定個人墓)である。須玖岡本王墓も墳丘を持つ。
- このように中期後半の王墓を含めた首長層墓の副葬品は、前漢鏡やガラス璧などの中国系が主流になる。これは、楽浪郡など漢四郡の設置で、初期筑紫政権の首長層の権威の拠り所が古朝鮮から前漢に変化したためで、後期には後漢に引き継がれる。

b) 方形区画(環溝)の出現

- 一部の人々の方形区画(環溝)が出現し、A 類型(円形の中の方形)→B 類型(円形の外の方形)→C 類型(円形のない方形)と展開する(三雲・井原遺跡下西地区、福岡市野方中原遺跡、佐賀県千塔山遺跡)。
- 南小路王墓の北 200m の集落域である下西地区には、中期後半に掘削された 1 辺約 45m の方形環溝が存在する。A 類型と考える。
- 方形環溝は、物見櫓・高床倉庫群・広場など、集落のさまざまな重要施設を中に取り込む。
- 首長層が一般の人々と共住する限り、彼らに対する一般の人々の反発は常に存在する。その反発をなだめて「みんな一緒ですよ」という共同幻想を振りまく器物が青銅祭器であった。

c) 青銅武器形祭器の埋納

- 北部九州では銅矛－銅戈－銅劍の序列が明確になる。対馬を除くと、中期末～後期の巨大化した中細形銅矛 c 類から中広形・広形銅矛は埋納専用となる。須玖岡本 D と三雲南小路では朝鮮系の中細形青銅武器を副葬するが、これは過渡的な様相で、以後、朝鮮系の青銅武器は対馬を除いて、基本的に副葬されない。一方、韓国では完形の中広形・広形銅矛はすべて墓の副葬品で、埋納例はない。
- 弥生時代のマツリの際には、「生活の場」「墓の場」「埋納の場」があり、中期後半以降は「墓の青銅器」と「マツリの青銅器」の二大青銅器体系が確立する。それぞれの頂点に立つ中国鏡と銅矛は、排斥しあって共伴しない。
- 村のマツリで青銅武器形祭器を埋納した例は、武末純一 2009 で述べたように、首長層がマツリを執行したことを示す。近年では大分市猪野遺跡第 6 次調査で村のはずれに中広形銅矛 1 点を

埋納した事例が確認された。

- 青銅器の埋納祭祀は農業祭祀が基本(五穀豊穡はみんなの願い)。しかし、中広形や広形の銅矛形祭器は奴国で大量につくられながら、海上交易活動に従事した対馬にも 130 点ほど集中分布し航海安全祭祀に用いられた。対馬では墳墓への副葬例(塔ノ首 3 号石棺墓など)もあって、対馬人も銅矛を保持したため、対馬独自のやりかたで埋納された例もある。しかし、同じように海上交易活動に従事した壱岐島(一支国)では、銅矛は 5 点しか出ていない。しかも対馬では九州本土と同様に、銅矛だけを十数点をまとめて刃を立て、切っ先をそろえるか互い違いにして埋納した例(単一器種大量埋納)がある。これらの事実からみて、対馬国での銅矛祭祀には、対馬国の人々だけでなく一支国から末盧国、伊都国を経て銅矛の主要生産地である奴国までの諸国が、玄界灘に浮かぶ倭と韓の国境の島で、「韓半島や中国大陸に出発する使節が無事に航海を終え、良きコトとモノをもたらすように」と祈願した航海安全祭祀、つまり初期筑紫政権のマツリも執行されたとみられる。
- 福岡市住吉神社付近で出た中細形銅矛 5 点と中細形銅戈 6 点も浜辺での大量埋納であり、航海安全祭祀の先駆けである。
- ただし、宗像地域は後半期の銅矛埋納例がなく、破片だけが知られている(釣川例は広形銅矛の破片)。初期筑紫政権も一枚岩ではない。

6. 荒神谷遺跡の銅矛埋納

- 日本列島の各地域政権はそれぞれ独自の青銅祭器を埋納した。荒神谷遺跡に埋納された 16 本の銅矛は、打ち違えて刃を立てる作法やその数量から見て、初期筑紫政権が主体となったマツリとみる余地があろう。

【引用参考文献】

尹容鎮 1966 「大邱市晩村洞出土青銅遺物」 『考古美術』 7－11(通巻第 76 号)

大分市教育委員会 2015 『大分市埋蔵文化財調査概要報告 2014』

慶南大学校博物館 2006 『馬山架浦洞遺跡』

後藤直 2000 「日韓の青銅器―副葬と埋納―」 『韓国古代文化の変遷と交渉』 書景文化社

下條信行 1989 「弥生社会の成立」 『古代史復元 4 弥生農村の誕生』 講談社

第 19 回国民文化祭春日市実行委員会 2004『第 19 回国民文化祭・ふくおか 2004 シンポジウム 邪馬台国の時代「奴国」』

武末純一 1982 「埋納銅矛論」 『古文化談叢』 第 9 集

武末純一 2009 「埋納銅矛論のいま」 『もう一つの青銅器世界』 荒神谷博物館

武末純一 2010 「弥生武器形青銅祭器の集落内埋納」 『先史学・考古学論究』 V 龍田考古学会

武末純一 2011 「沖ノ島祭祀の成立前史」 『「宗像・沖ノ島と関連遺産群」研究報告』 I

福岡市立歴史資料館 1978 『銅矛と銅鐸―弥生時代の祭器とその鋳型―』 福岡市立歴史資料館図録 第 3 集

森貴教 2010 「弥生時代北部九州における石斧埋納」 『先史学・考古学論究』 V 龍田考古学会

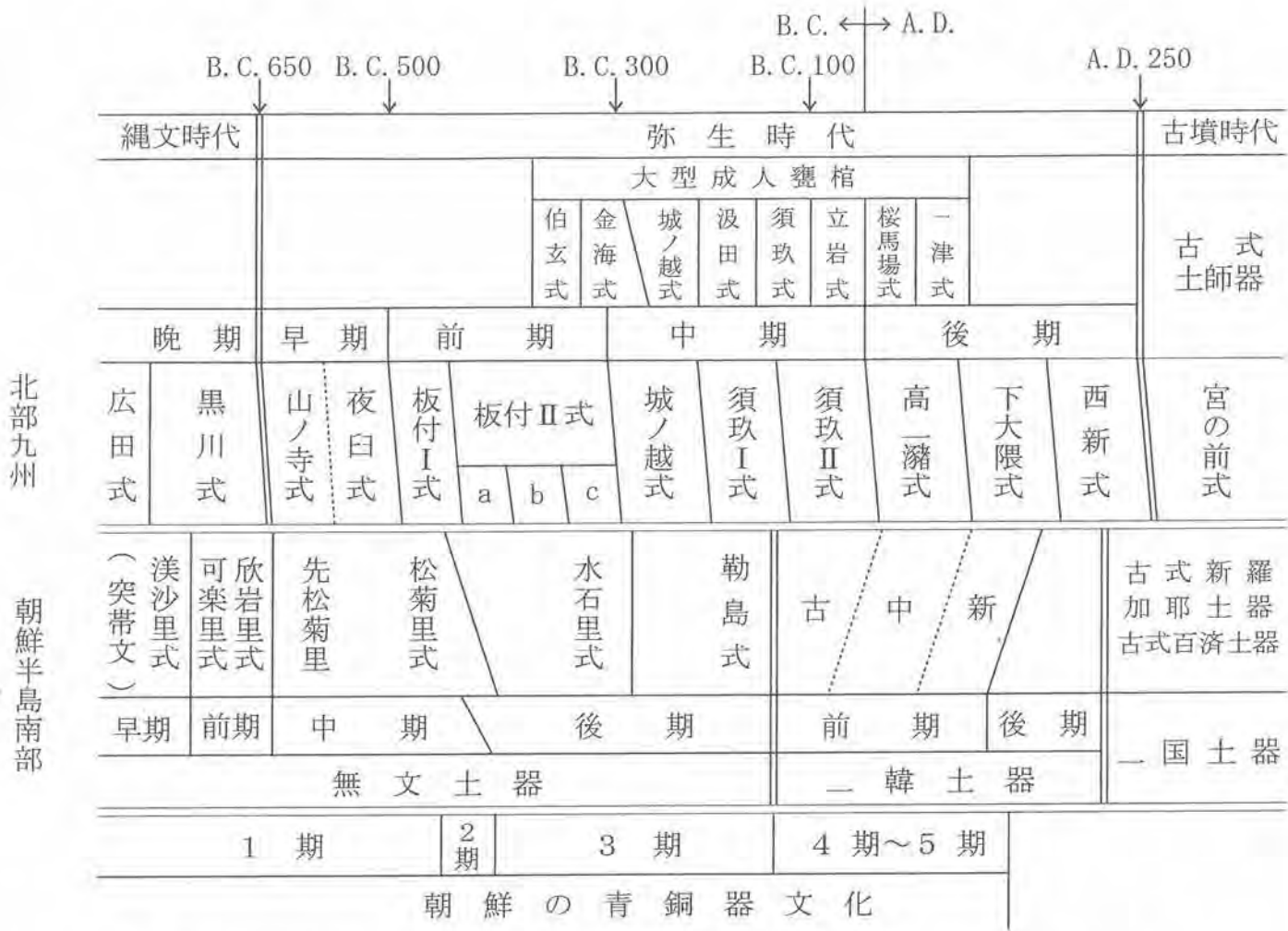


図1 北部九州の弥生土器と朝鮮半島南部の無文土器・三韓土器の併行関係

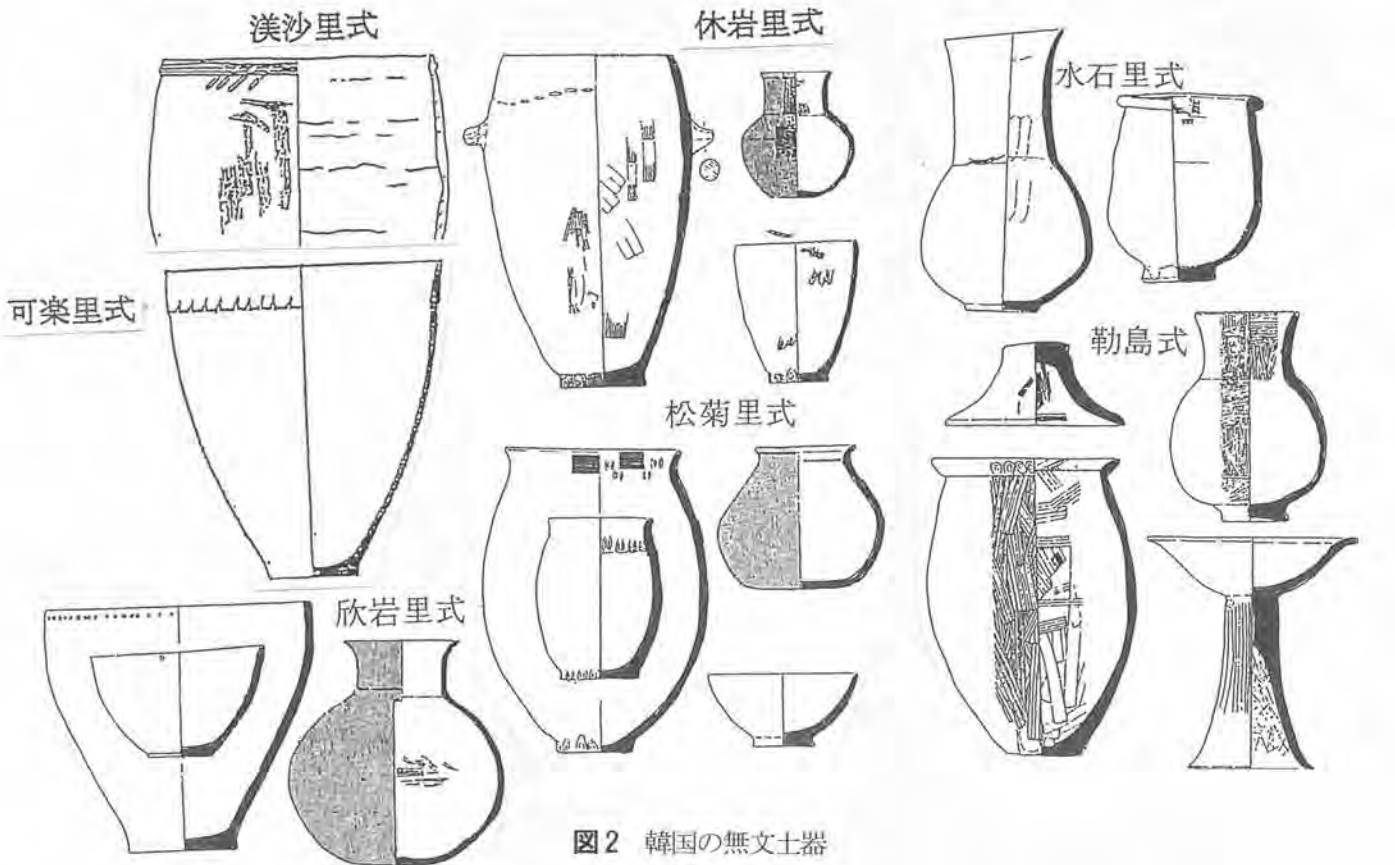


図2 韓国の無文土器

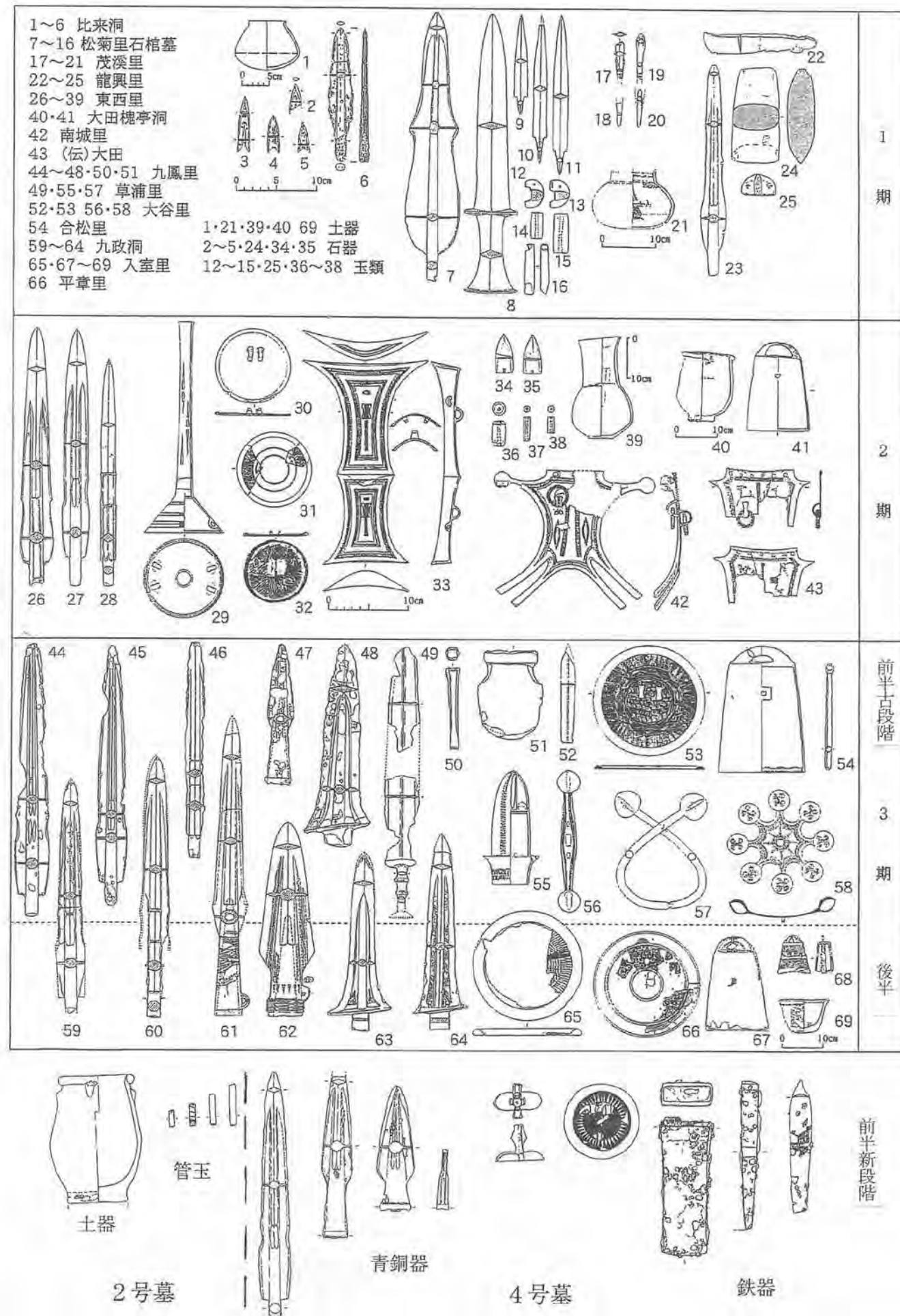


図3 韓半島南部の青銅器編年(上)と南陽里2 4号墓出土遺物(下)

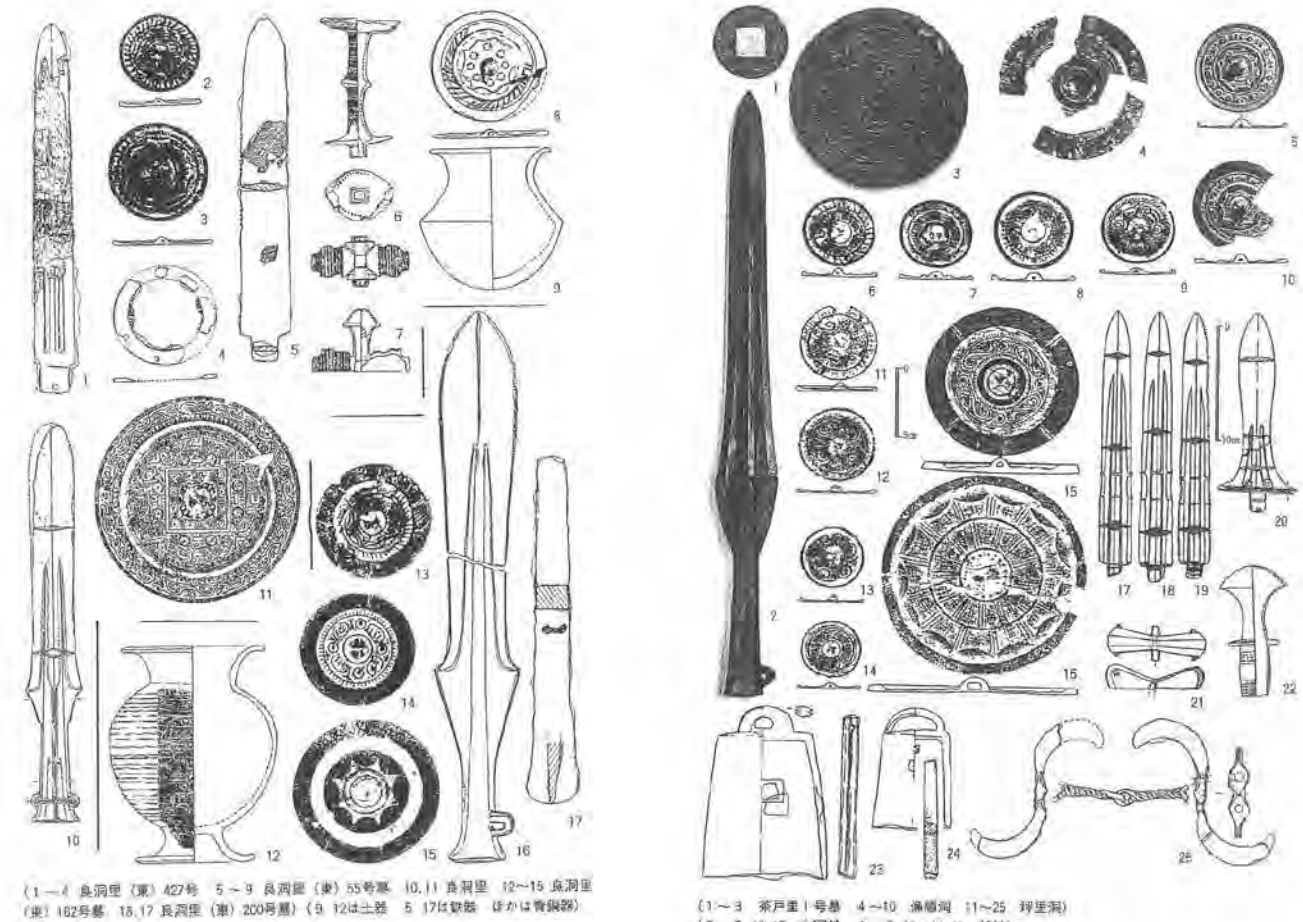


図4 韓国の4期(右)と5期(左)の青銅器など

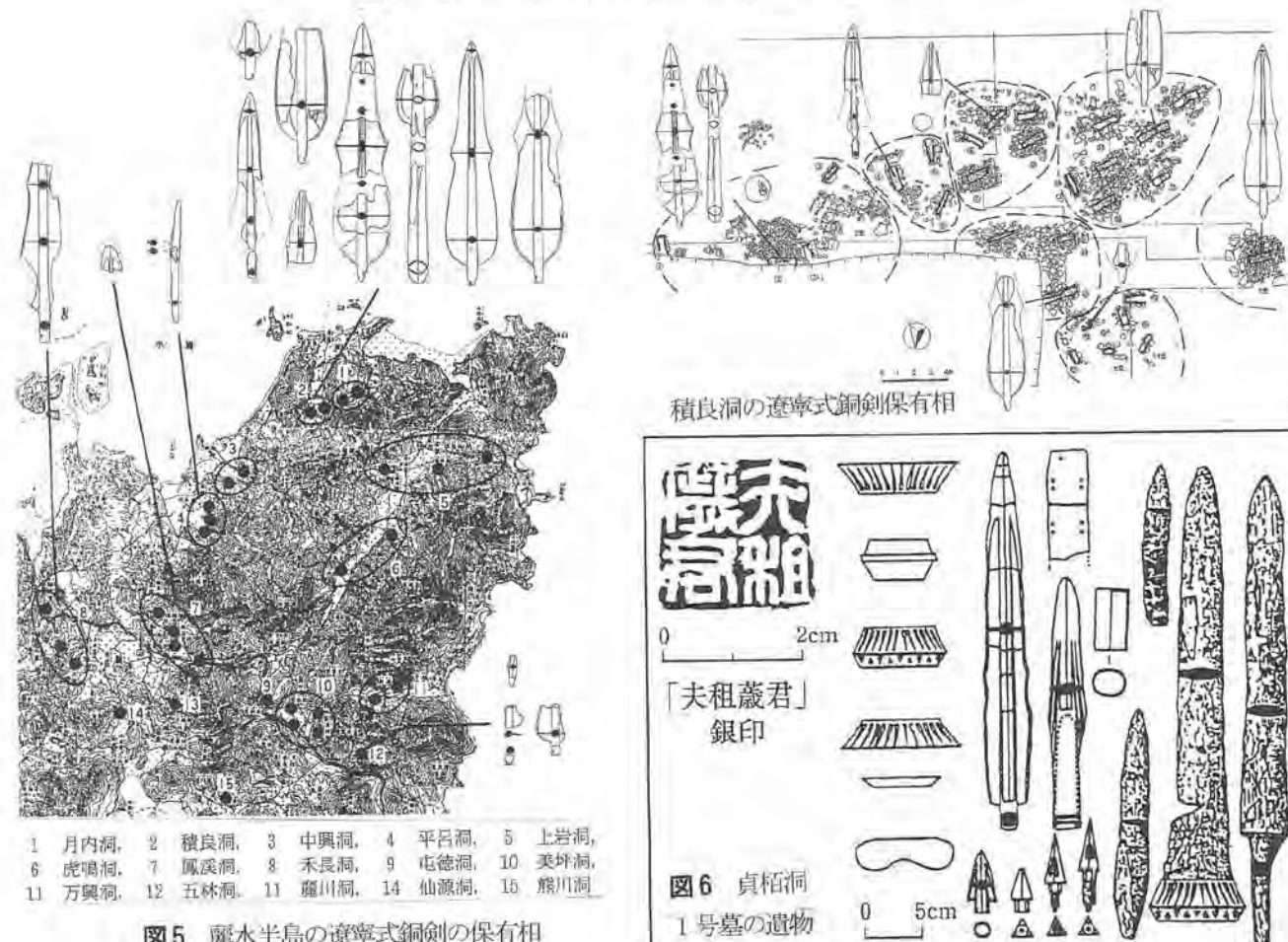


図5 麗水半島の遼寧式銅剣の保有相

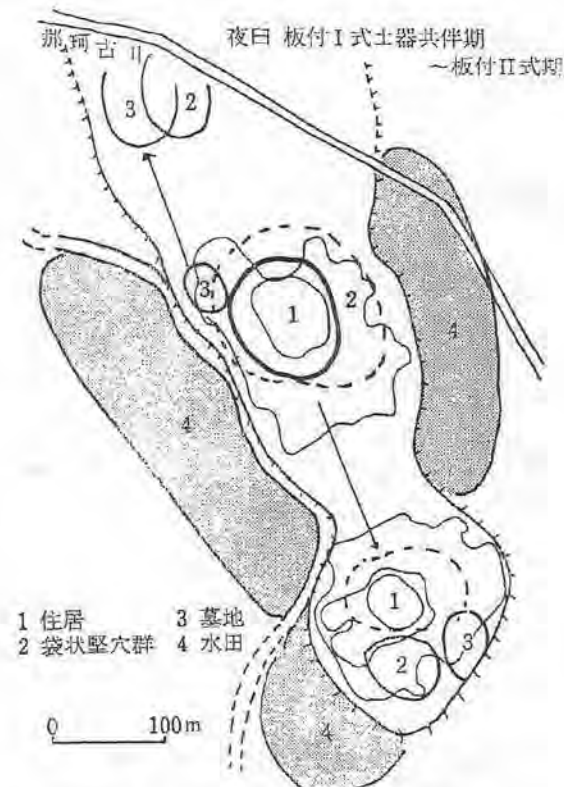


図7 福岡市板付遺跡の前期の様相

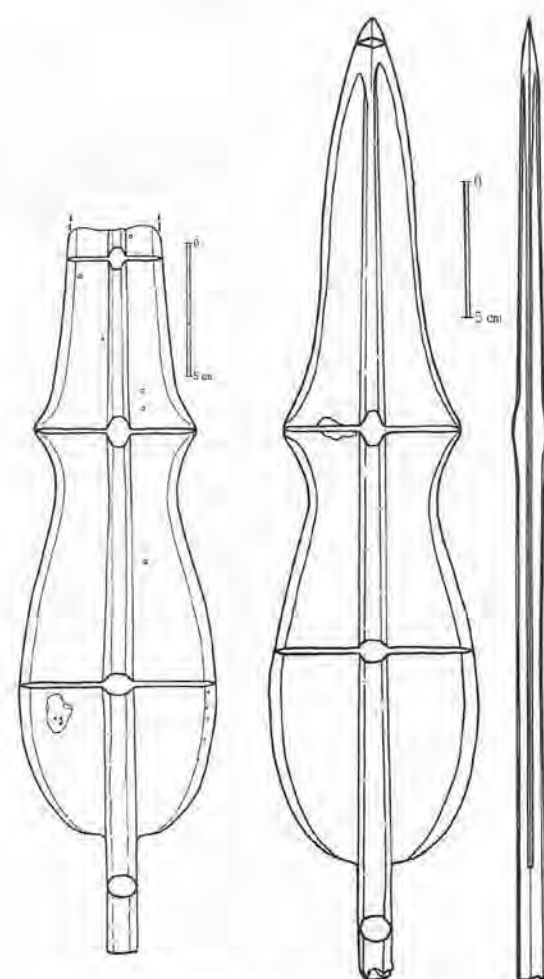


図8 禮田洞の遼寧式銅剣

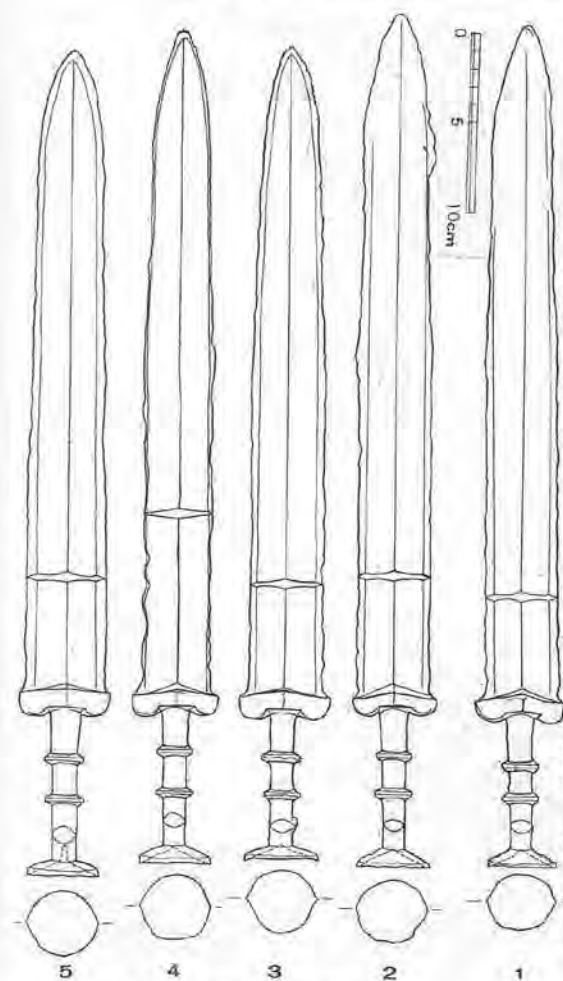


図9 完州上林里桃氏剣

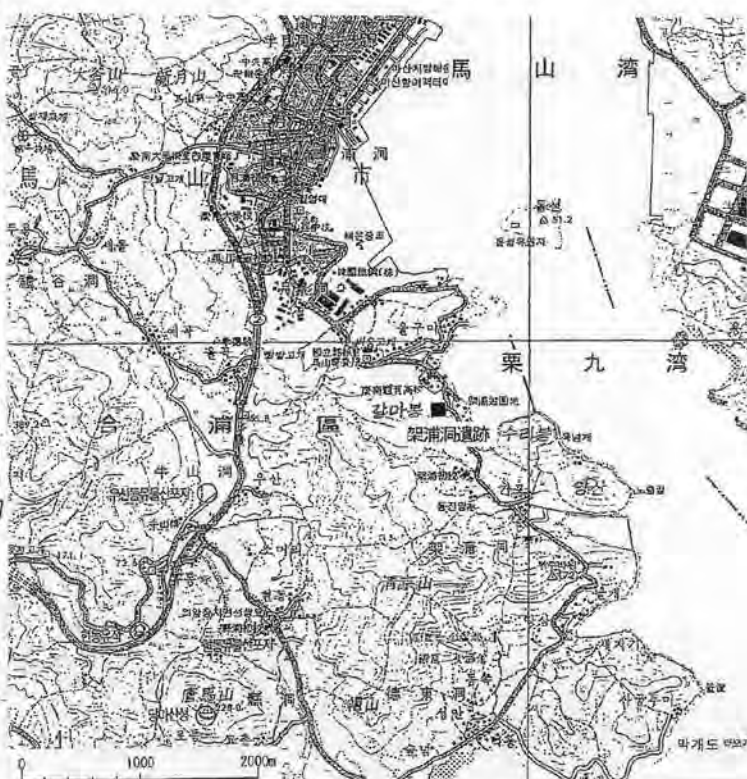


図10 架浦洞遺跡の立地

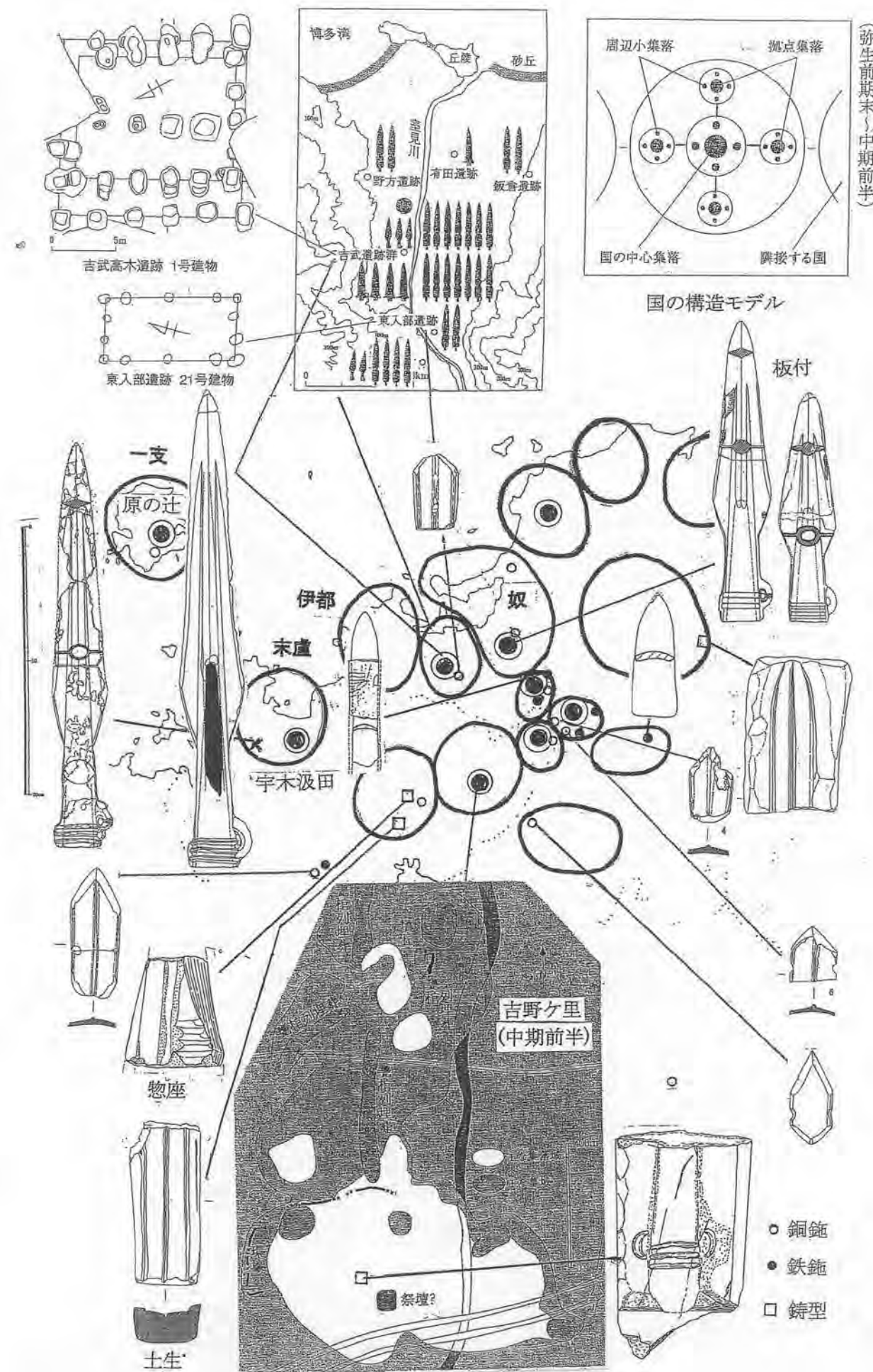


図11 北部九州の弥生時代前半期の国々

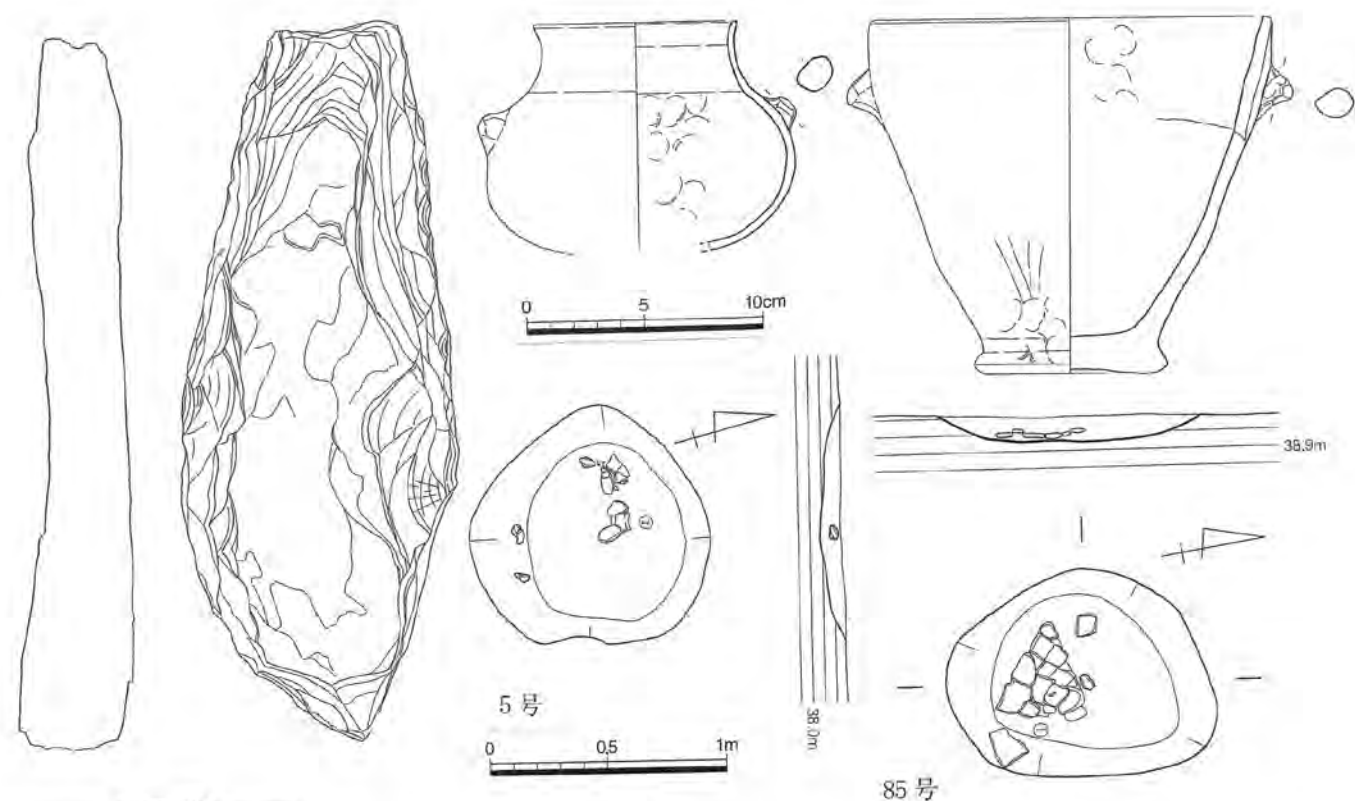


図12 東川洞遺跡の石器・土器埋納遺構

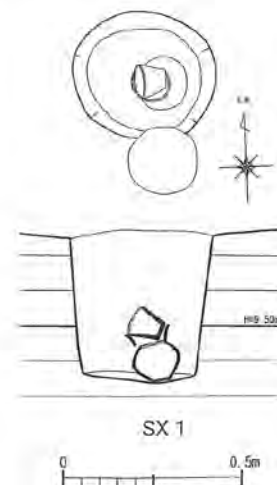
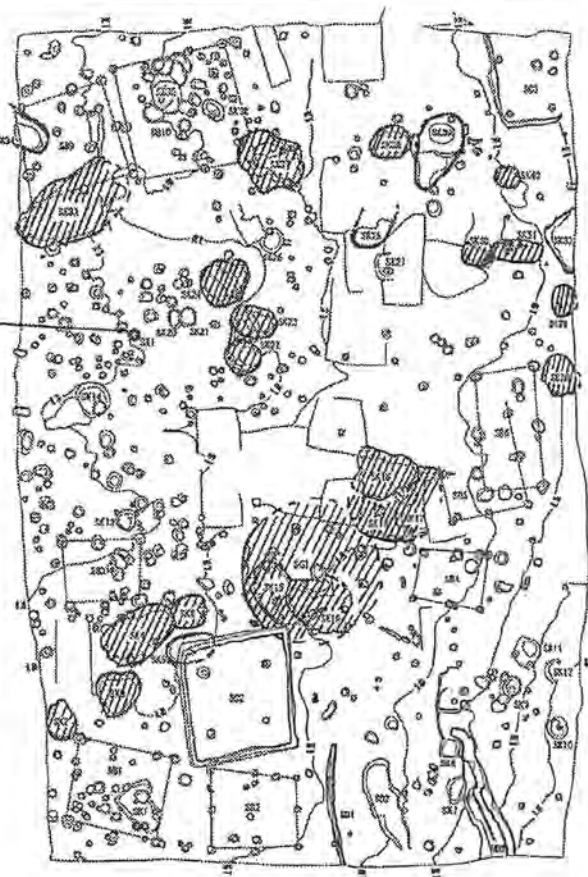
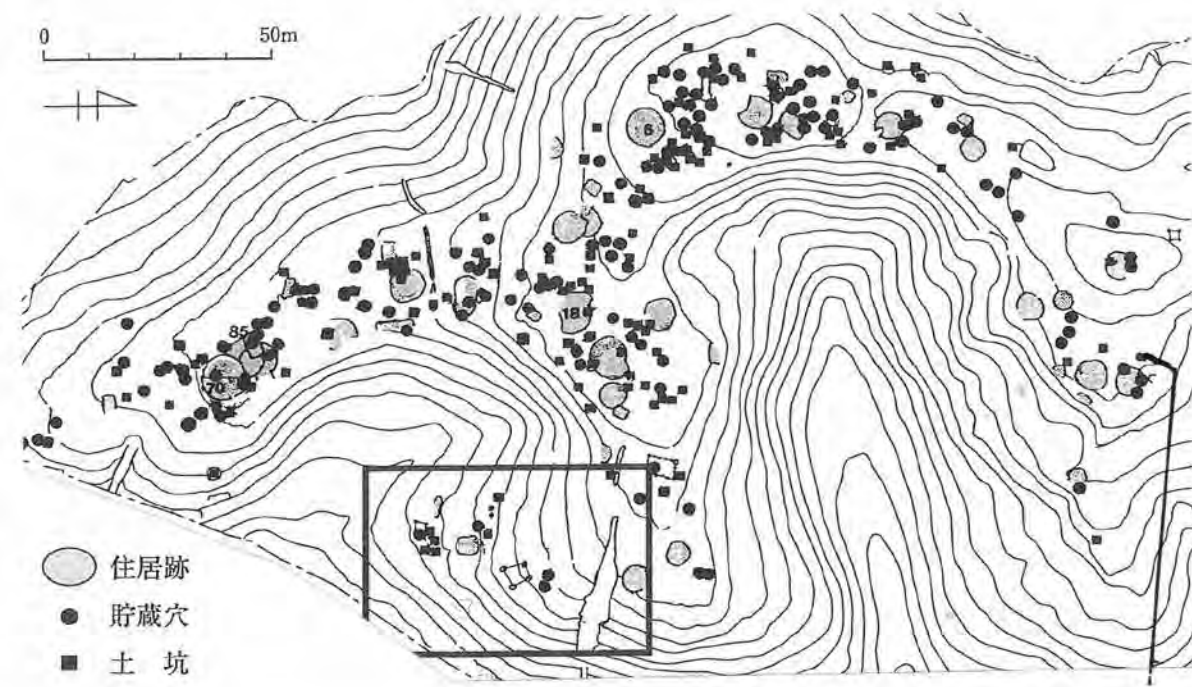


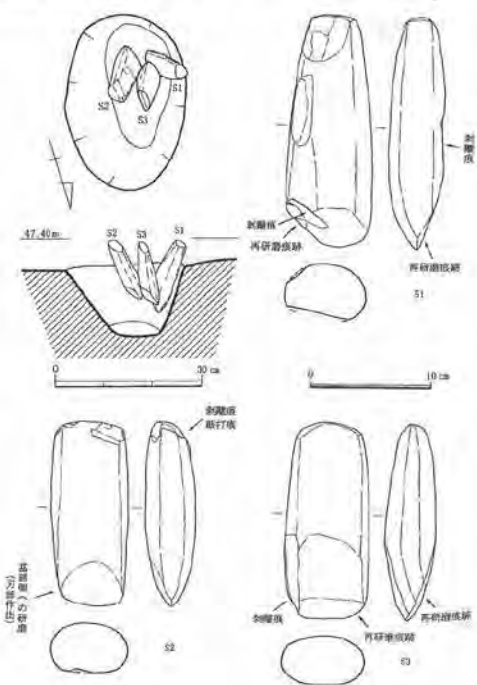
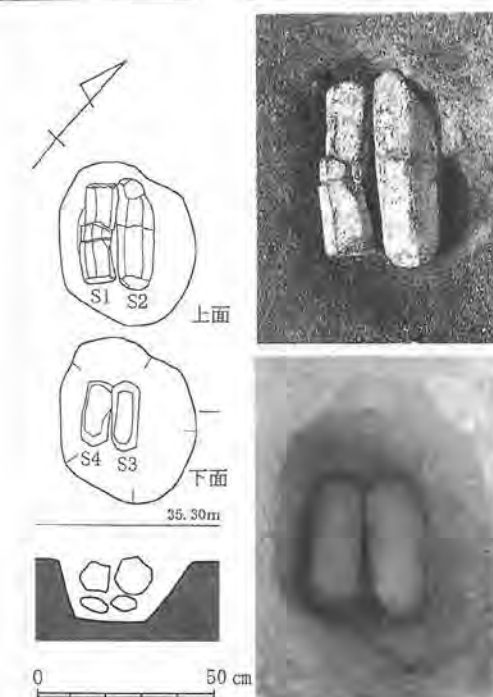
図13 流遺跡の土器埋納



城ノ越期 須玖I期



1、ノ口遺跡



2、大久保遺跡

図14 村のマツリでの石器埋納

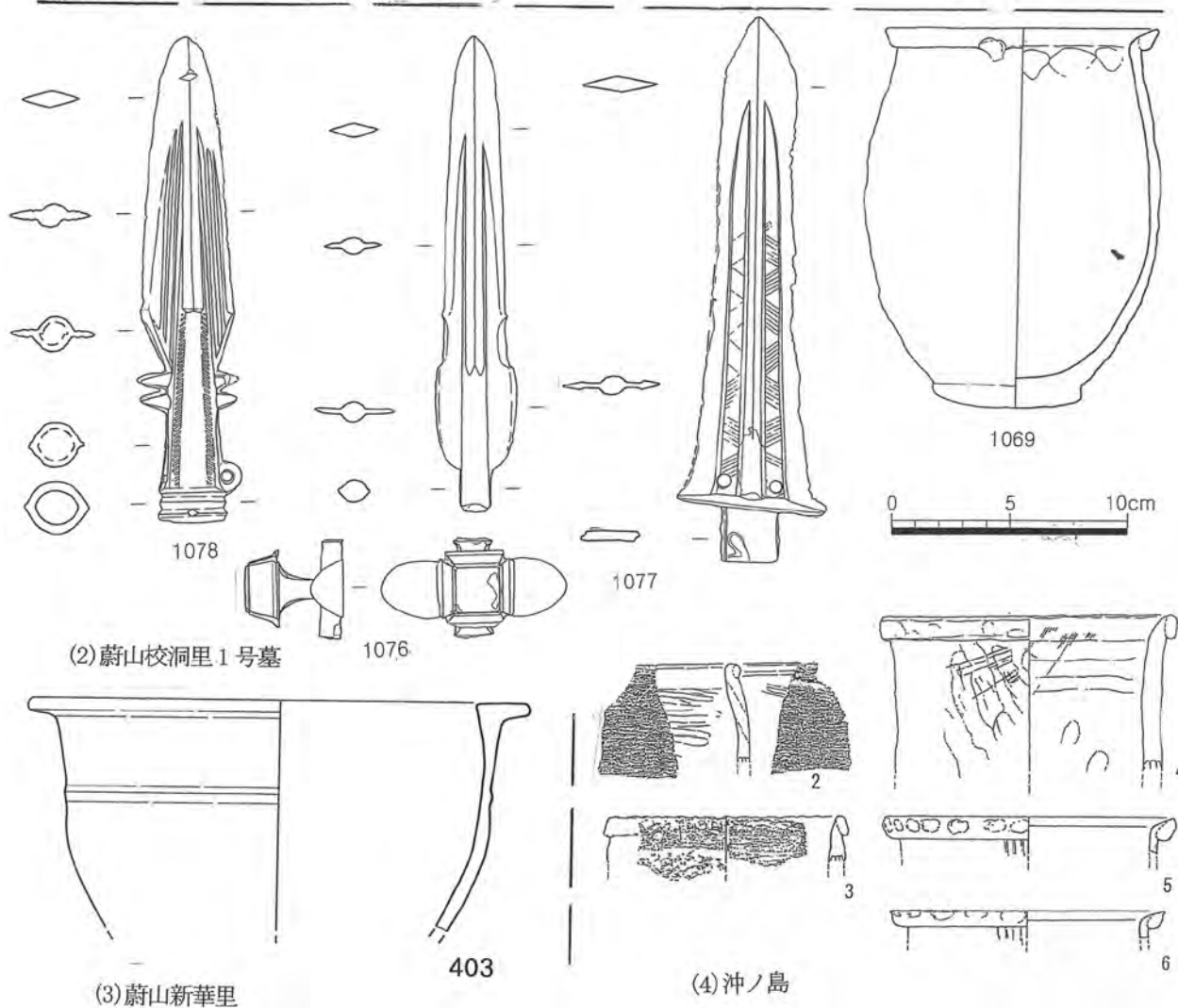
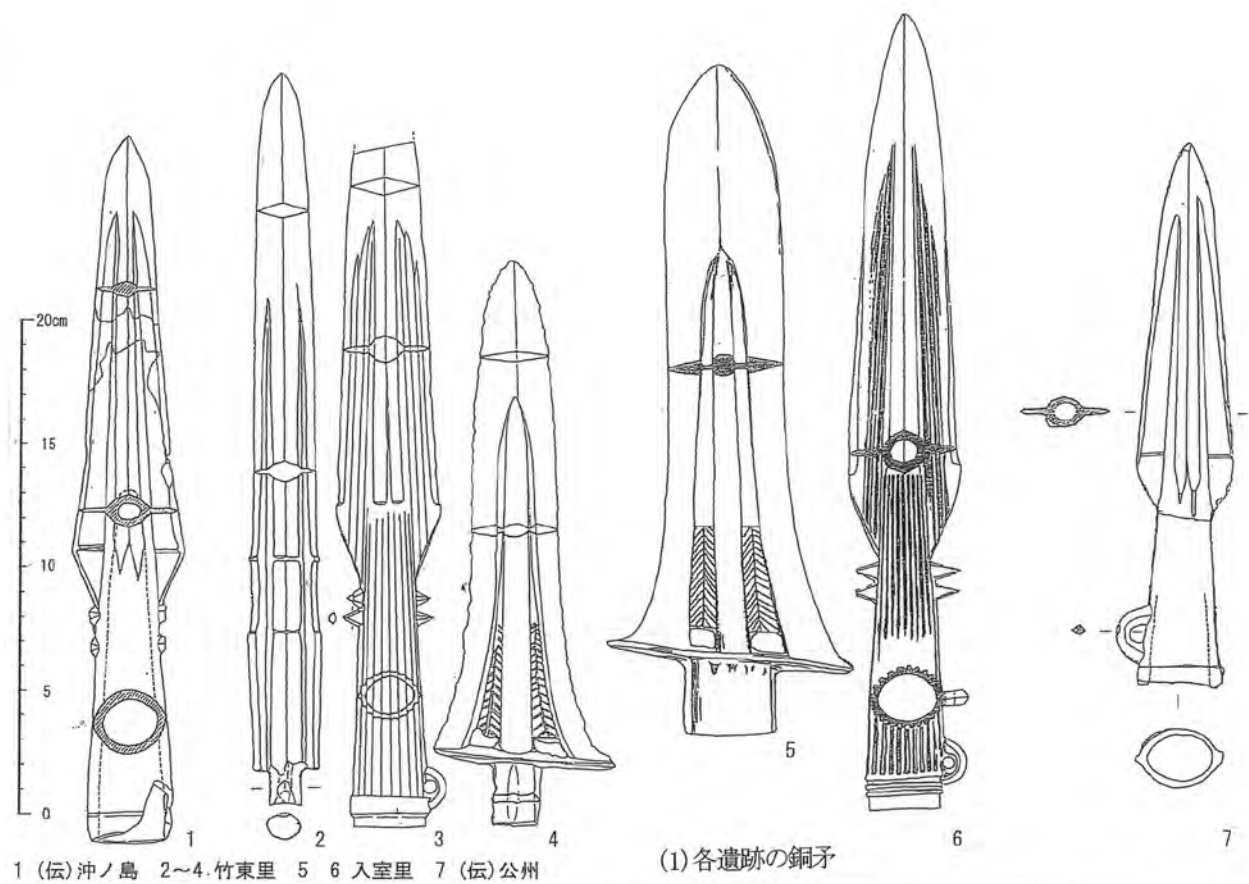


図15 (伝)沖ノ島出土銅矛と関連資料



図16 三雲・井原遺跡

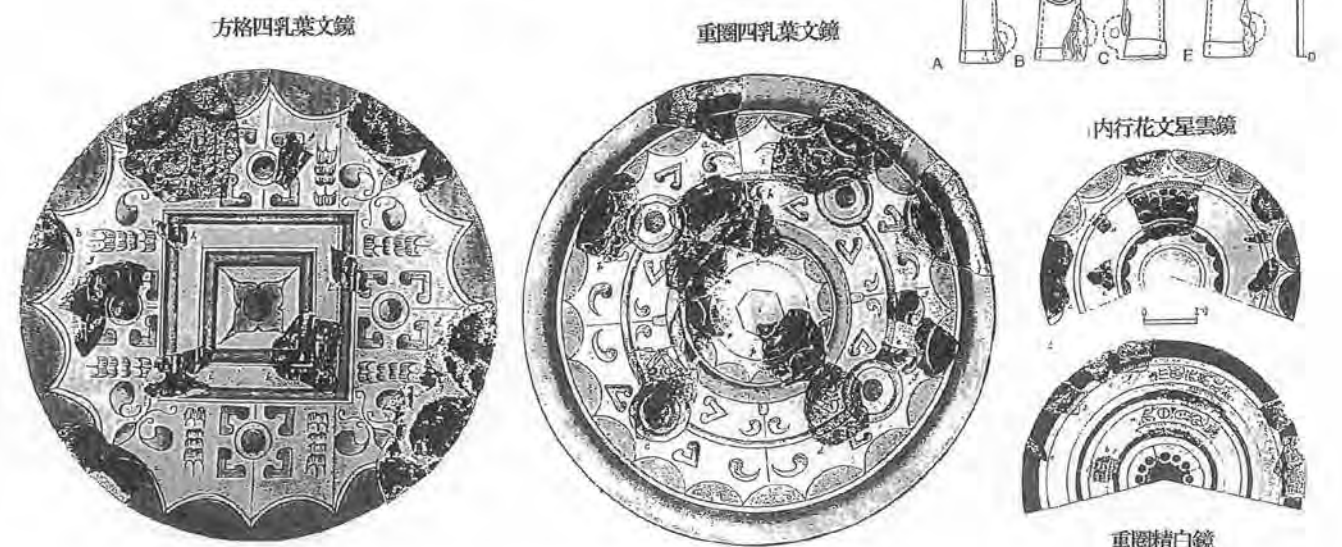


図18 須玖岡本王墓の中国鏡と青銅武器

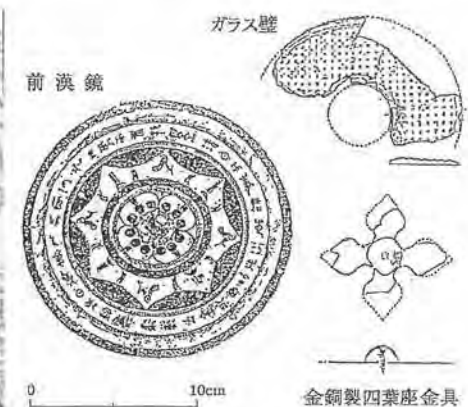


図17 三雲南小路王墓の遺物

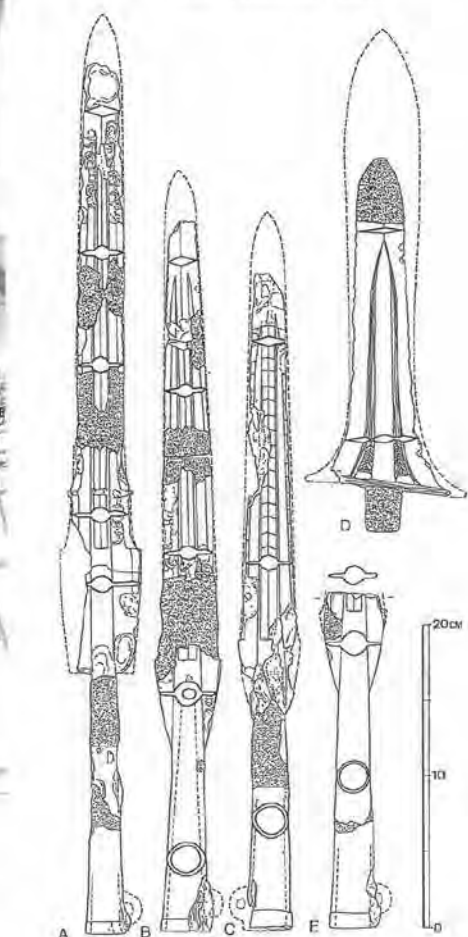
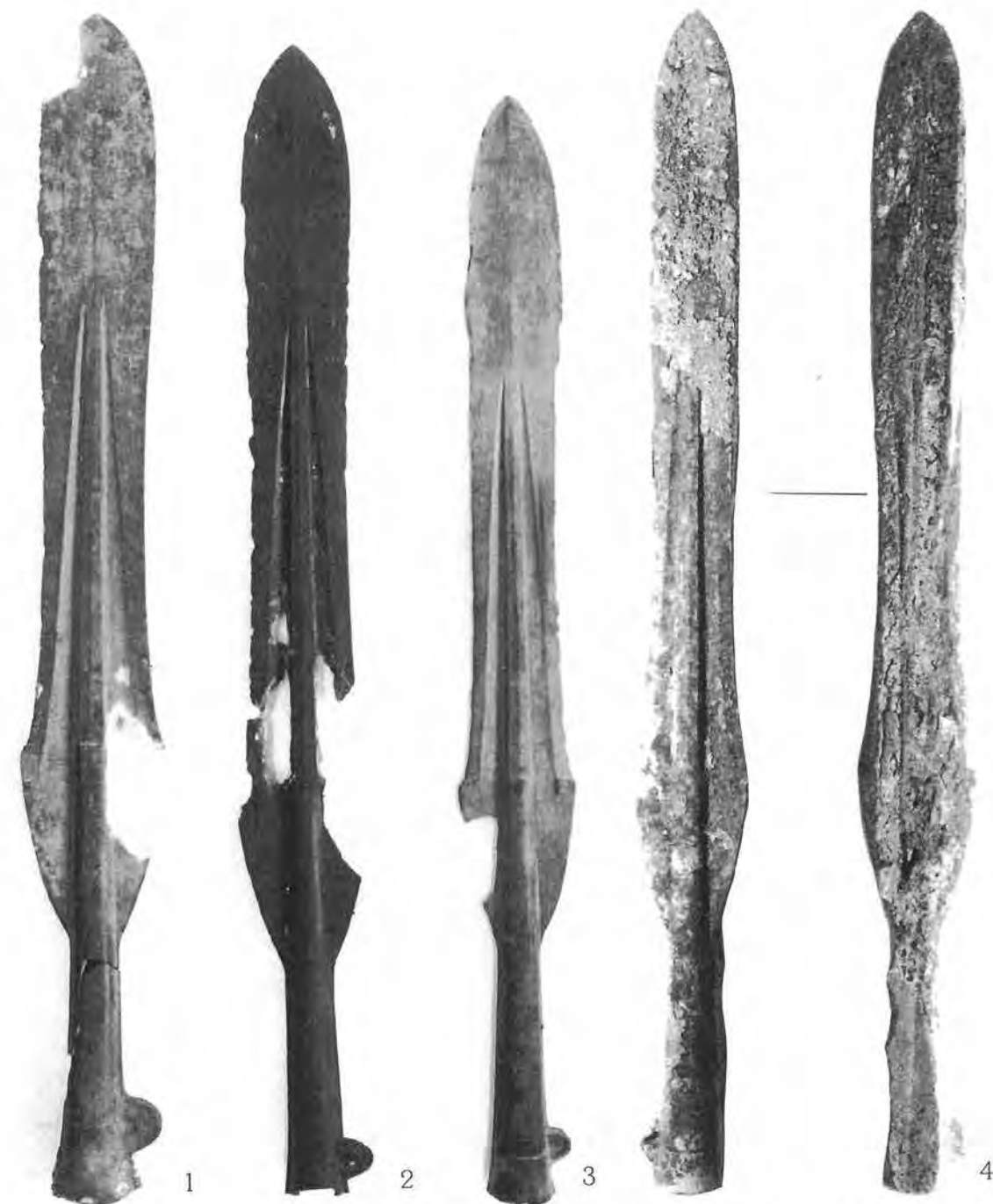


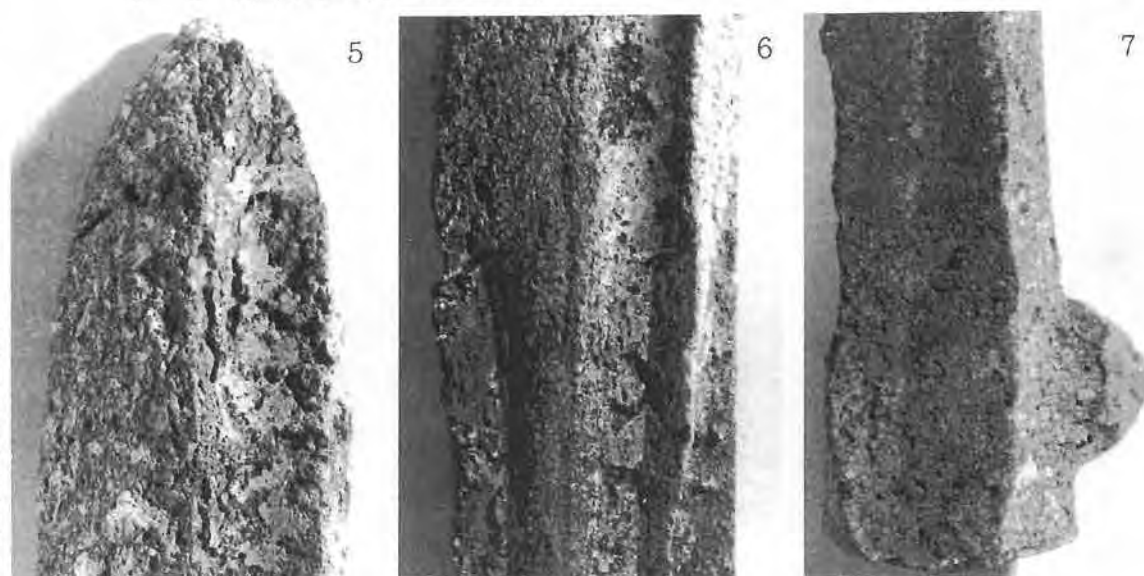
図19
埋納銅矛



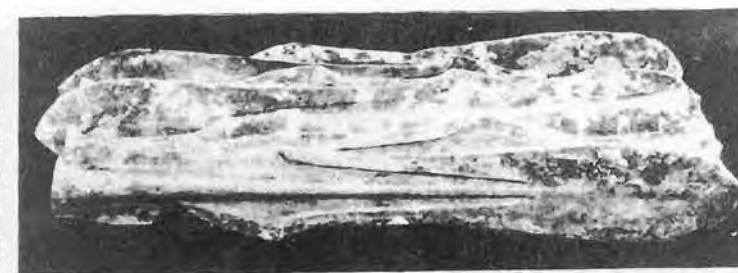
1 3 長崎県壱岐天ヶ原出土銅矛

4 大分県鳥越出土銅矛

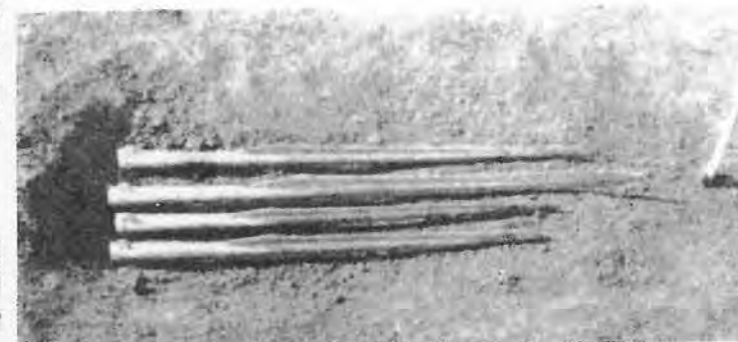
5 鳥越出土銅矛圧痕部分



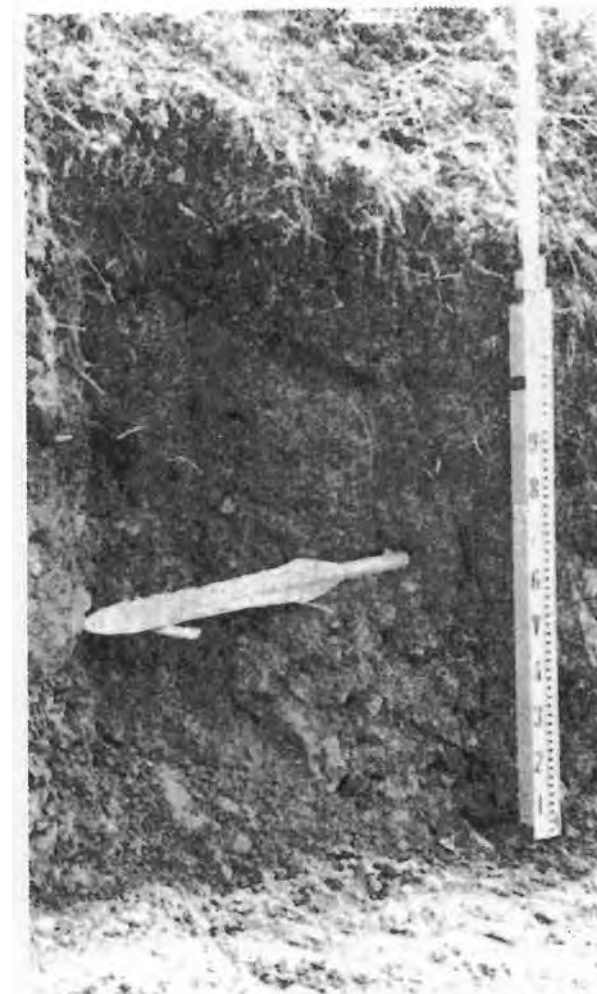
1 福岡県西方



2 福岡県辻 (復元)



3 熊本県轟 (復元)



5 高知県遅倉 (復元)



4 熊本県上西原 (復元)



6 高知県西ノ川口 (復元)

図20 銅矛の埋納状況

1. 荒神谷遺跡ってなに？

1984（昭和 58）年に広域農道建設に伴う事前調査により発見された遺跡。

1998（平成 10）年に銅剣 358 本、銅鐸 6 個、銅矛 16 本が一括して国宝指定される。



荒神谷青銅器群のスゴイ（魅力）ところ

- ・銅剣 358 本（全国での銅剣の出土総数は約 600 本、その半数以上が出土）
- ・銅矛 16 本と銅鐸 6 個と一緒に埋められていた。（全国初）
- ・弥生時代のロマンが詰まっている。

2. 荒神谷博物館特別展「魏志倭人伝シリーズ」とは？

2014（平成 26）年魏志倭人伝シリーズⅠ「一支国ー弥生の海上交易都市ー」

2015（平成 27）年魏志倭人伝シリーズⅡ「末盧国ーひすいと青銅器のクニーー」

2016（平成 28）年魏志倭人伝シリーズⅢ「伊都国ー大鏡と女王のクニーー」

2017（平成 29）年魏志倭人伝シリーズⅣ「奴国（壺）ー青銅器と王のクニーー」

2018（平成 30）年魏志倭人伝シリーズⅤ「奴国（貳）ークニを支えた人とモノー」

2019（令和元）年魏志倭人伝シリーズ外伝Ⅰ「ムナカター海の民のクニーー」

3. 北部九州と荒神谷青銅器

・荒神谷銅矛 16 本

- ・刃部に綾杉状の研ぎ分けがある→奴国や周辺地域（佐賀平野）での生産の可能性
- ・中細形と中広形→「筑紫矛」北部九州では青銅器の最上位

・荒神谷 1 号銅鐸

- ・文様やつり手部分の異例な形状→九州での生産の可能性？

4. まとめ

- ・北部九州から見る荒神谷（出雲）は、他地域とくらべ魅力的で特別な存在



2019（令和元）年魏志倭人伝シリーズ外伝Ⅰ

「ムナカター海の民のクニーー」～8/26 まで！！

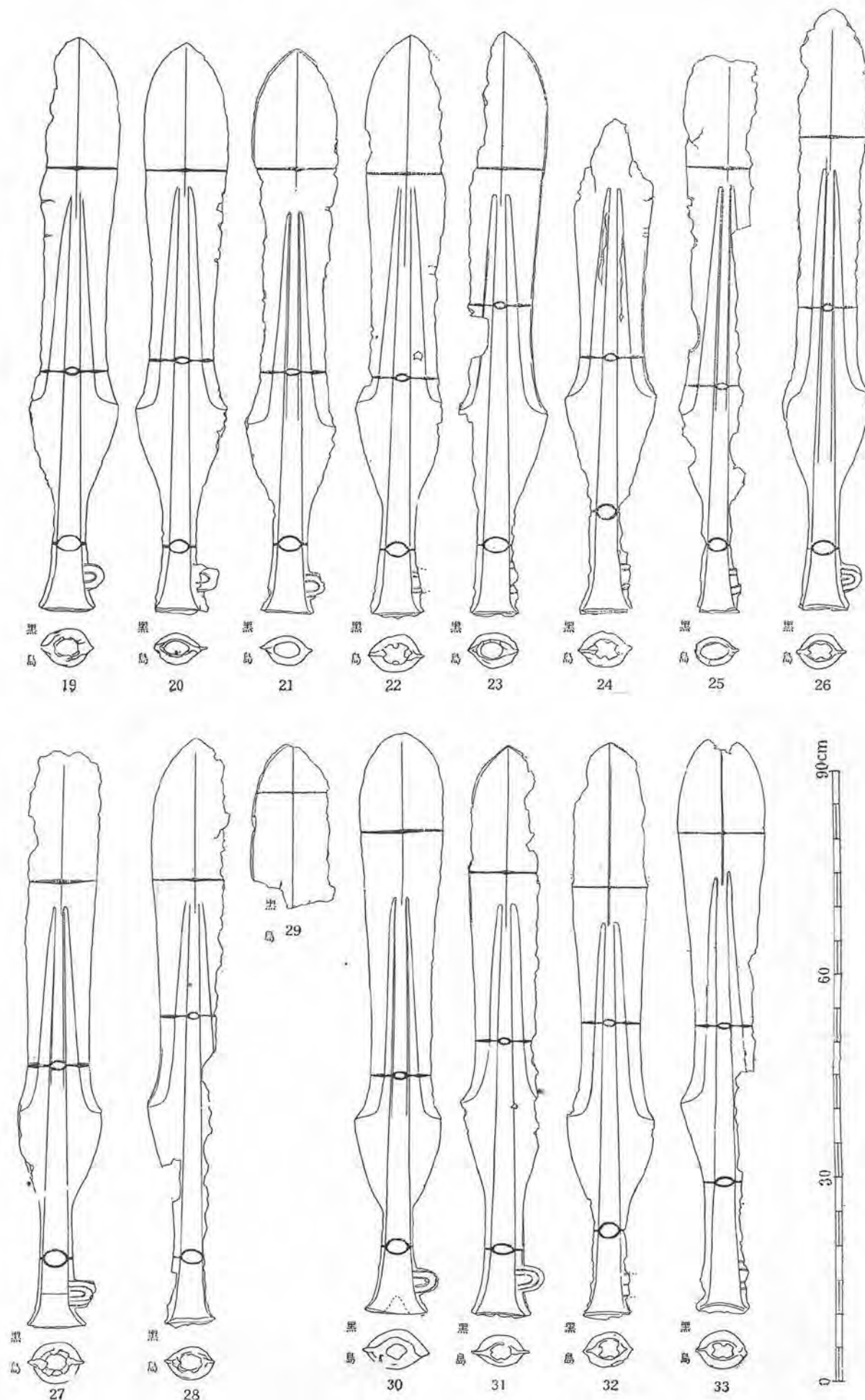


図 26 対馬市黒島出土広形銅矛

図 1 魏志倭人伝の国々



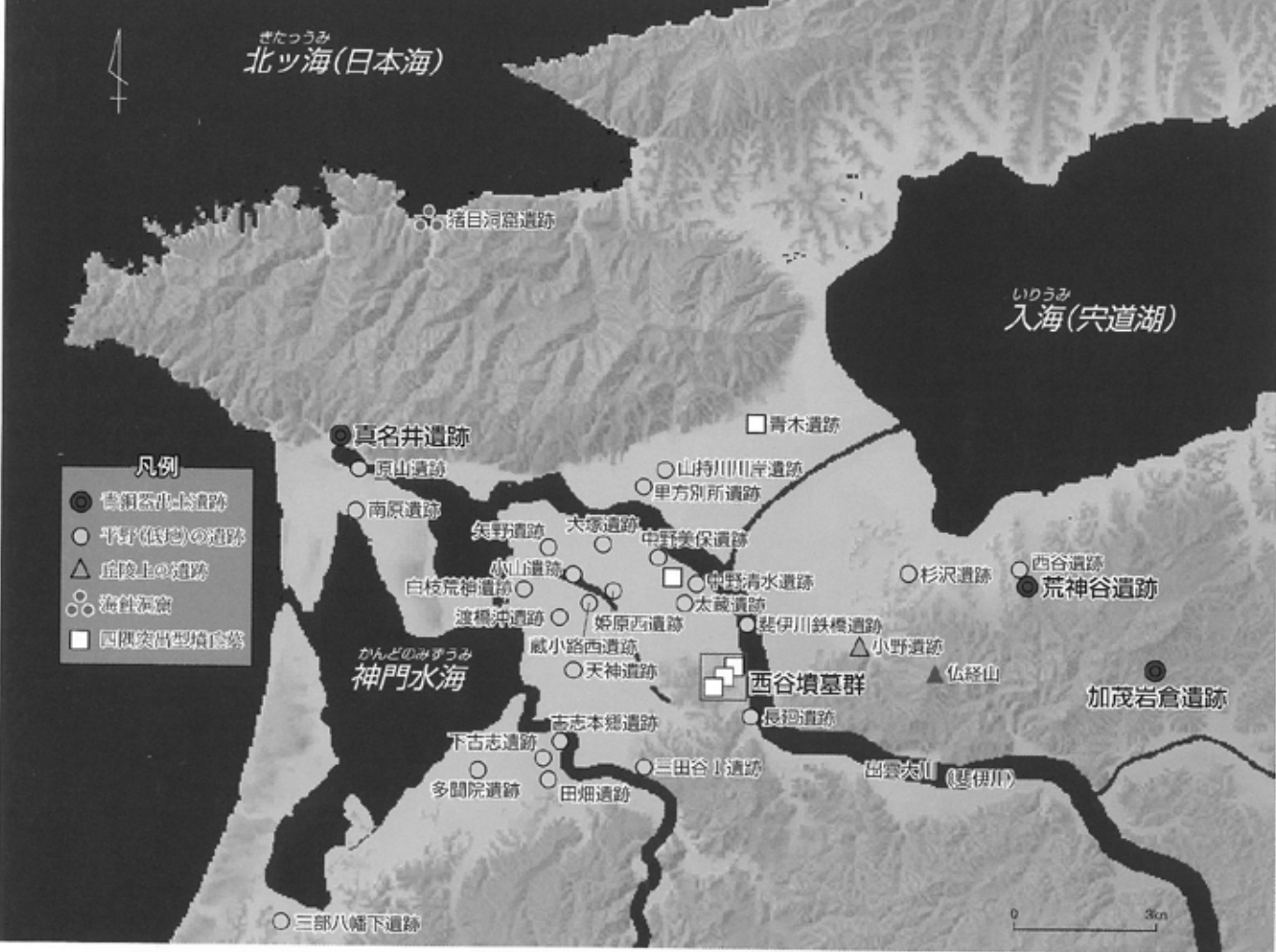
図 2 北部九州の王（首長）

時期	唐津 (末盧国)	糸島 (伊都国)	早良	福岡 (奴国)	嘉穂	佐賀	筑紫
弥生中期 後半(前)	中原	三雲南小路 王墓	吉武樋渡 東入部・岸田	須玖岡本 王墓D地点 上月隈 安德台	立岩 鎌田原	吉野ヶ里 墳丘墓	東小田峯 隈
弥生中期 後半(後)	中原		有田117次 丸尾台 浦江谷	門田 弥永原	立岩	二塚山 柚比	立明寺 道場山
弥生後期 前半	桜馬場	井原鎌満王墓 井原ヤリミソ	有田117次 西新町 浦江谷	須玖岡本B地点 宝満尾 松添 宮ノ下 弥永原	五穀神社 笹原石棺墓	二塚山 三津永田 石動四本松 尼寺一本松	道場山 吉ヶ浦
弥生後期 後半	中原	飯氏K-7 井原ヤリミソ 平原王墓 泊熊野	野方塚原	日佐原	原田S-1 向田	松葉 横田 栴島山 原古賀 城原三本谷	宗石
弥生終末 古墳初頭		東二塚 東五反田 三雲寺口S-2	野方中原S-3 野方塚原K-2				良積K-16 良積K-14 良積K-20 祇園山
古墳前期	久里双水古墳			那珂八幡古墳			

5-2 北部九州各地の王（首長）墓とその時期（常松幹雄 2012 表1を一部改変して作成、赤字は本展で取り扱う主要な遺跡。）

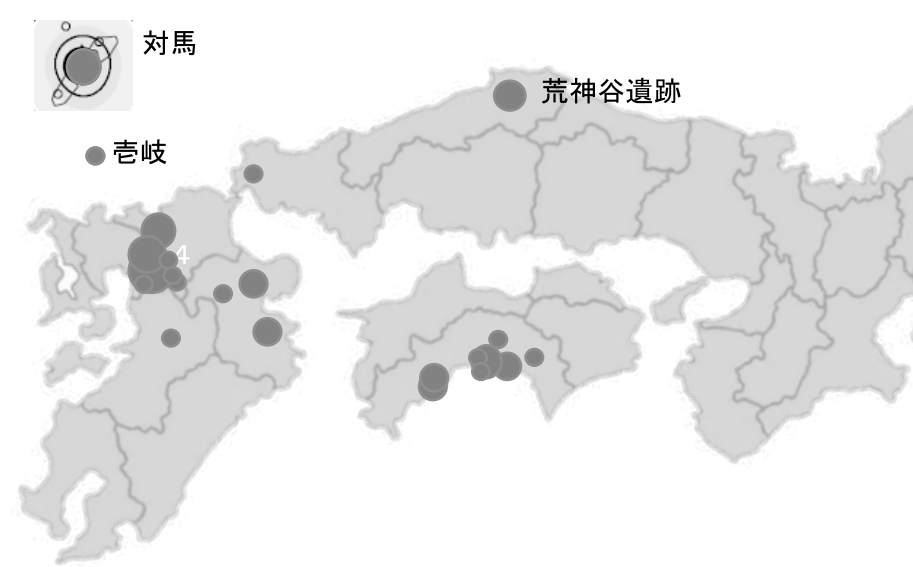
『王の鏡』2016 伊都国歴史博物館一部改変して作成

図 3 出雲の主要弥生遺跡



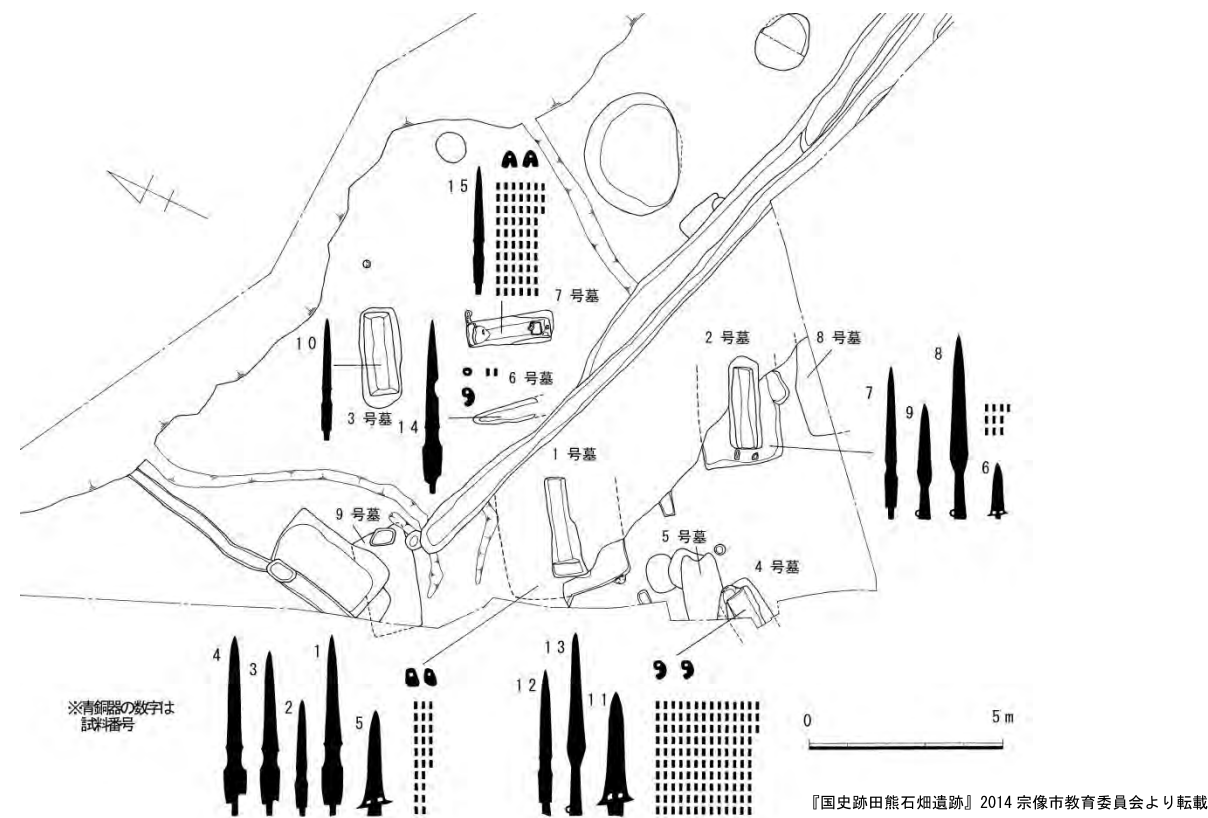
西谷墳墓群周辺の弥生遺跡(中期中葉～後期を中心に) (カシミール3D利用 <http://www.kashimir3d.com>)
訂線は奈良・平安時代(8～9世紀)の推定線を参考に作成
島根県立古代出雲歴史博物館『弥生王墓誕生』2007より転載

図 4 中広形銅矛の分布図



吉田広氏「弥生青銅器祭祀の展開と特質」『国立歴史民俗博物館研究報告185集2014』を参考作成

図5 宗像市田熊石畑遺跡の副葬品出土配置図と出土した副葬品類



土笛（福津市香葉遺跡出土/福津市教育委員会所蔵）



土笛（宗像市光岡長尾遺跡出土/宗像市教育委員会所蔵）

『国史跡田熊石畑遺跡』2014 宗像市教育委員会より転載

報告 (2)

国宝銅剣の調査研究で何がわかったか

増田浩太

1. はじめに

2. 国宝指定後の調査研究

- ・ 全国の埋納地調査
→ 現在も、新発見があれば実地調査
- ・ 鋳造・研磨技術研究
→ 顕微鏡観察・三次元計測を活用した製作技術の検証
→ 同範関係の分析
- ・ 製作技術の復元（実験考古学）
→ 鋳型の復元製作・鋳造実験
- ・ 自然化学分析の深化
→ 鉛同位対比分析の精査、成分分析の検証
- ・ 修理に伴う再調査
→ 第二次修理にあわせた全点調査（修理前・修理後）

3. 調査によって何が分かったか（個人的見解）

- ・ 銅剣自体に関して
→ 国産材料を使用した可能性は
→ 鋳型の材質
→ 製作集団の様相
- ・ 埋納に関して
→ 青銅器埋納→○→四隅突出型墳丘墓
→ 立地の問題

4. おわりに

- ・ 今後の展望

A. 埋納地の立地と眺望（島根県編2006『青銅器埋納地調査報告書Ⅱ』を一部改編）

	山頂・尾根上	丘陵斜面	丘陵頂	丘陵・段丘上	平地	海浜部
近畿						
山陰						
瀬戸内						
高知						
北部九州						
南部九州						
対馬						
全国						

	前期		中期		後期	
	よい	わるい	よい	わるい	よい	わるい
近畿						
山陰						
瀬戸内						
高知						
北部九州						
南部九州						
対馬						
全国						

B. 荒神谷・加茂岩倉遺跡の可視領域（吉田・増田・山口2006『実践 考古学GIS』挿図一部改編）

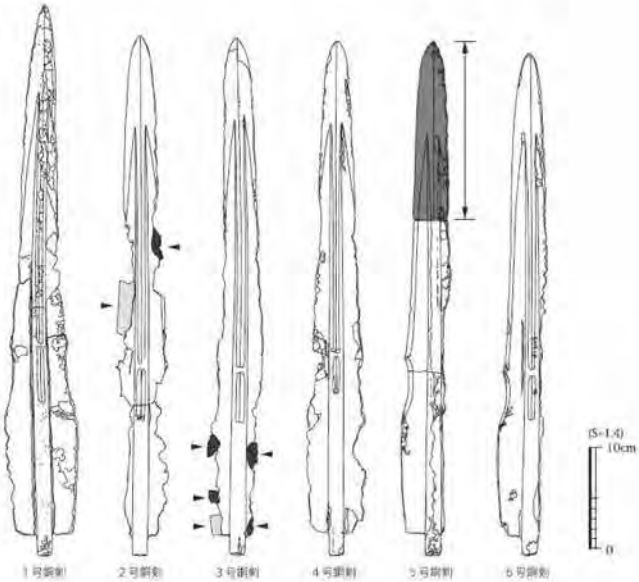


C. 志谷奥青銅器の再調査（記者発表資料2018より）

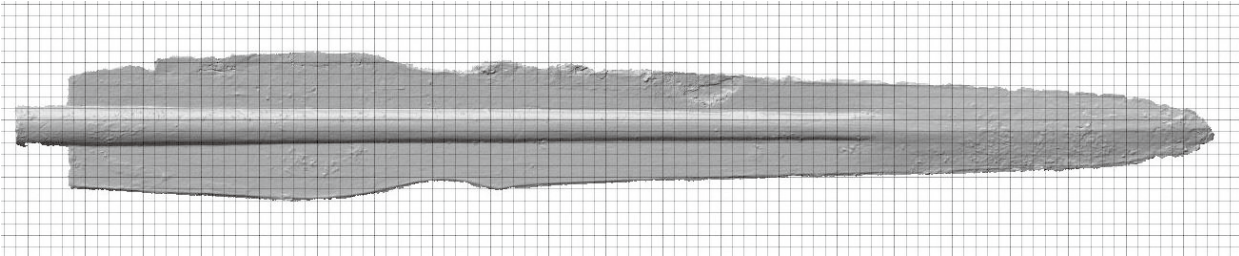
- ・昭和48年10月10日、銅鐸2個、銅剣6本発見
- ・昭和50年11月20日～26日、鹿島町教育委員会（当時）が現地の発掘調査
- ・平成29年からの調査で3個目の銅鐸が存在する（銅剣の破片も複数あり）



新発見の破片



D. 荒神谷銅剣の製作技術



未研磨銅剣B62（三次元計測データ：元興寺文化財研究所）

武器形青銅器同范関係（島根県2004『青銅器の同范関係調査報告書Ⅰ』より）

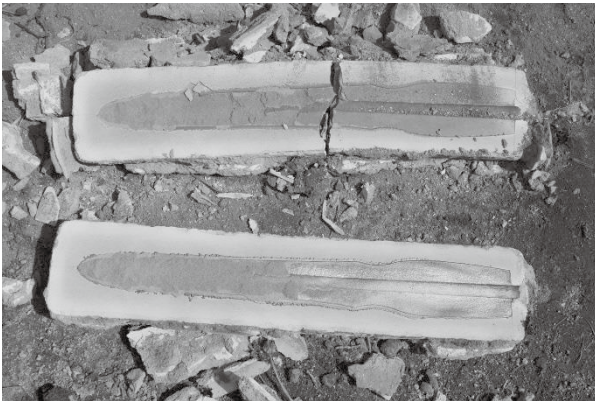
器種類	型 式	遺 跡 名	出土数 (a)	鋳型数 (b)	同范組数 (c)	平均鋳造数 (d ; a / b)	同范組比率 (e ; c / b)
銅戈	中細形B類	隈・西小田	23	22	1	1.045	4 %
	中細形B類	住吉神社蔵	6	6	0	1.000	0 %
	中細形B類	隈・西小田+住吉神社蔵	29	26	2	1.115	8 %
	中細形B類	牛尾神社旧蔵	2	2	0	1.000	0 %
	中細形C類	原町	43	42	1	1.024	2 %
銅剣	中細形C類	荒神谷	296	226	43	1.310	19%
銅矛	中広形	荒神谷	13 <13>	13 <12>	0 <1>	1.000 <1.083>	0 % <8 %>
	中広形	目達原	4	4	0	1.000	0 %
	中広形	検見谷	12	11	1	1.091	9 %
	中広形	目達原+検見谷	16	14	1	1.143	7 %
	中広形	須玖岡本(バンジャク)	6 <6>	6 <5>	0 <1>	1.000 <1.200>	0 % <20 %>
	広形	坊主山	7 <7>	7 <6>	0 <1>	1.000 <1.167>	0 % <17 %>
	広形	増田山	8	8	0	1.000	0 %

荒神谷・バンジャク・坊主山の下段は、彫り直しの可能性を算入した場合

E. 製作技術の復元

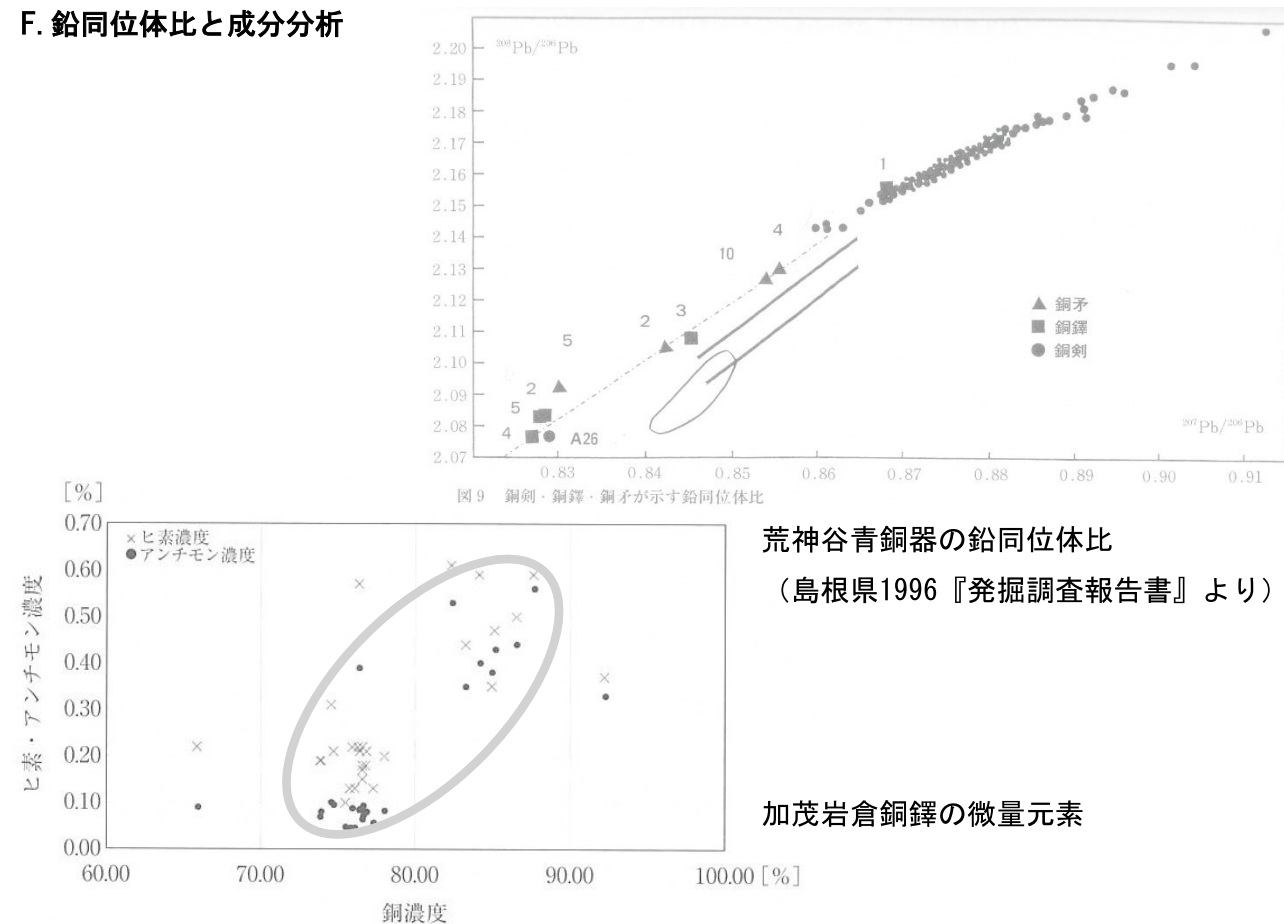


青銅溶解実験

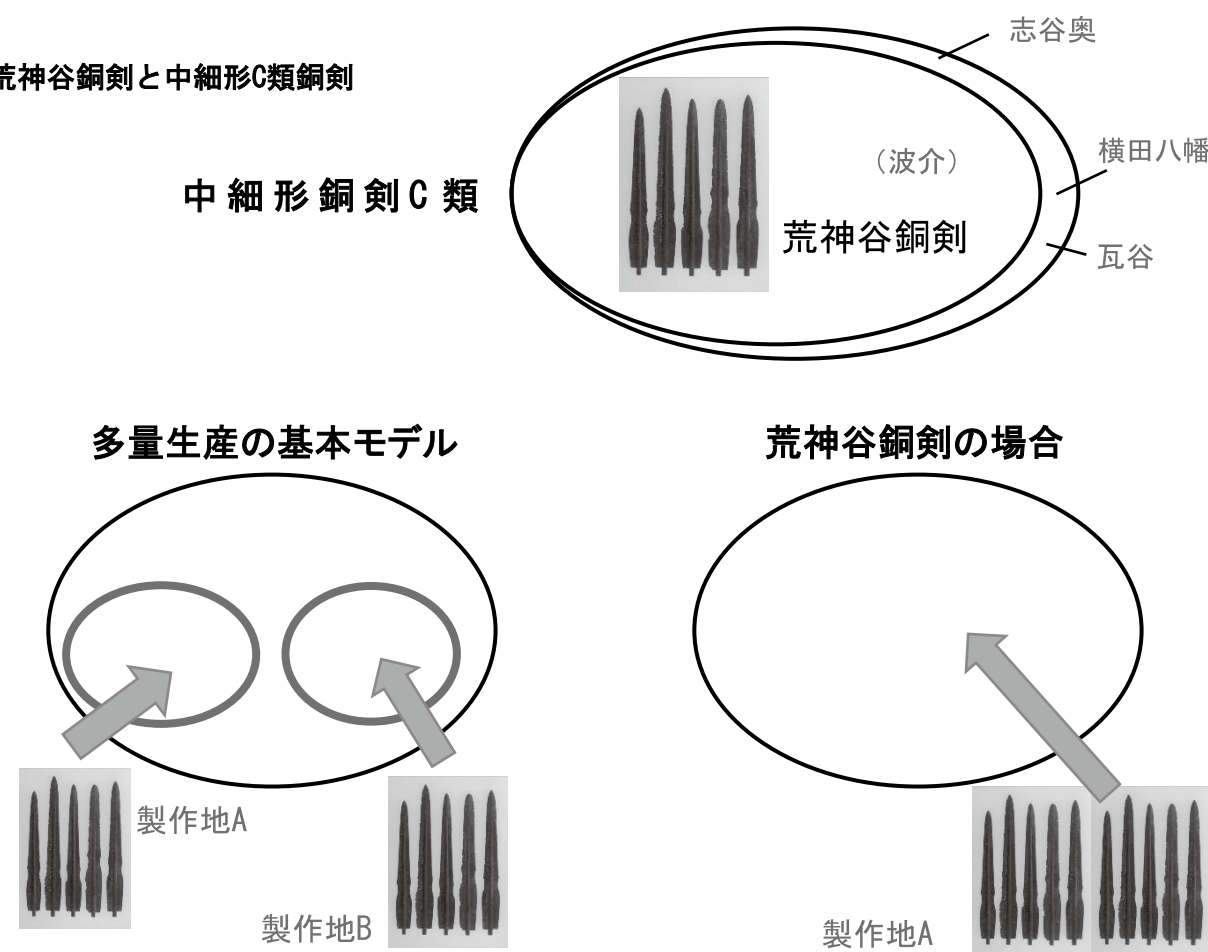


鋳造した銅剣

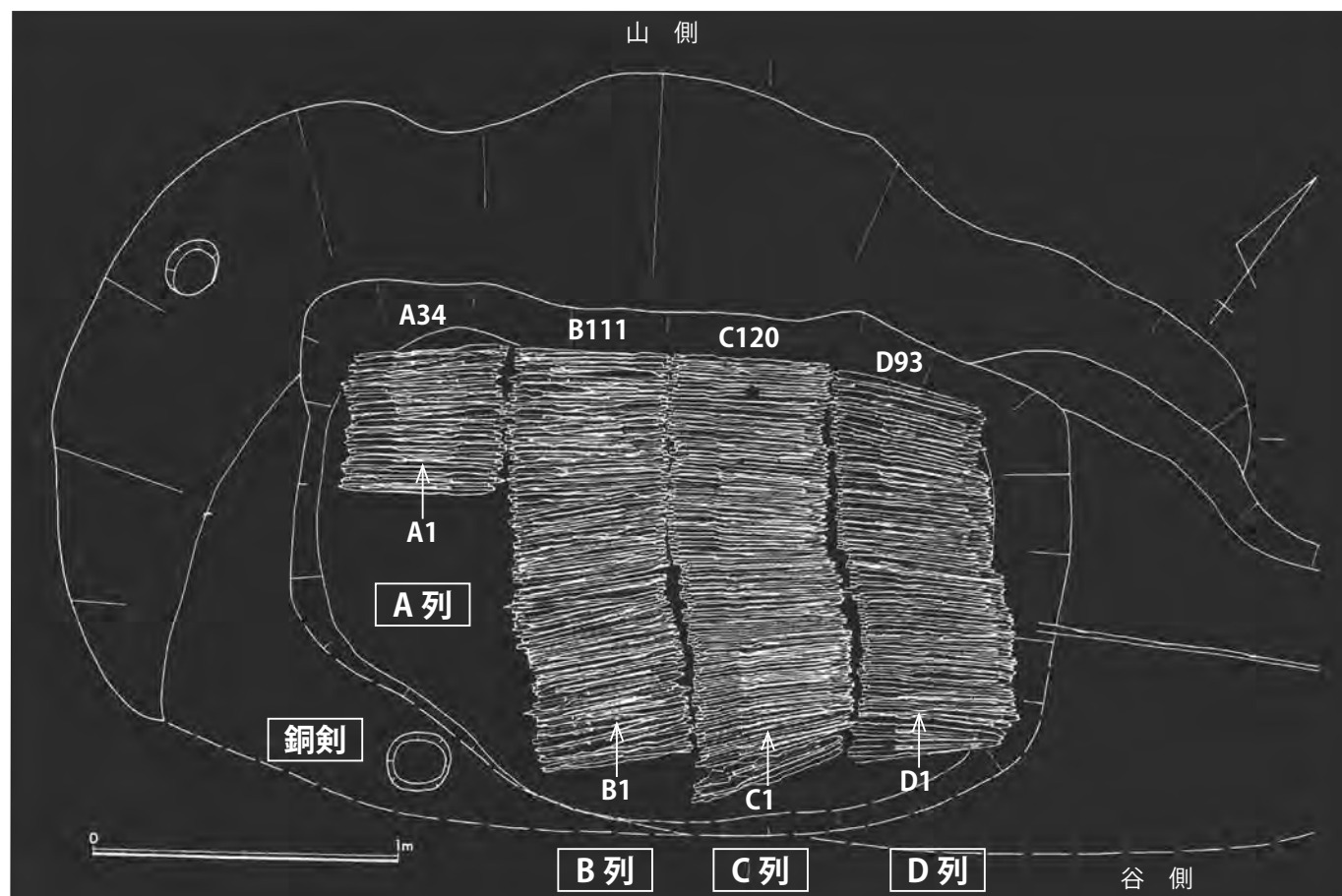
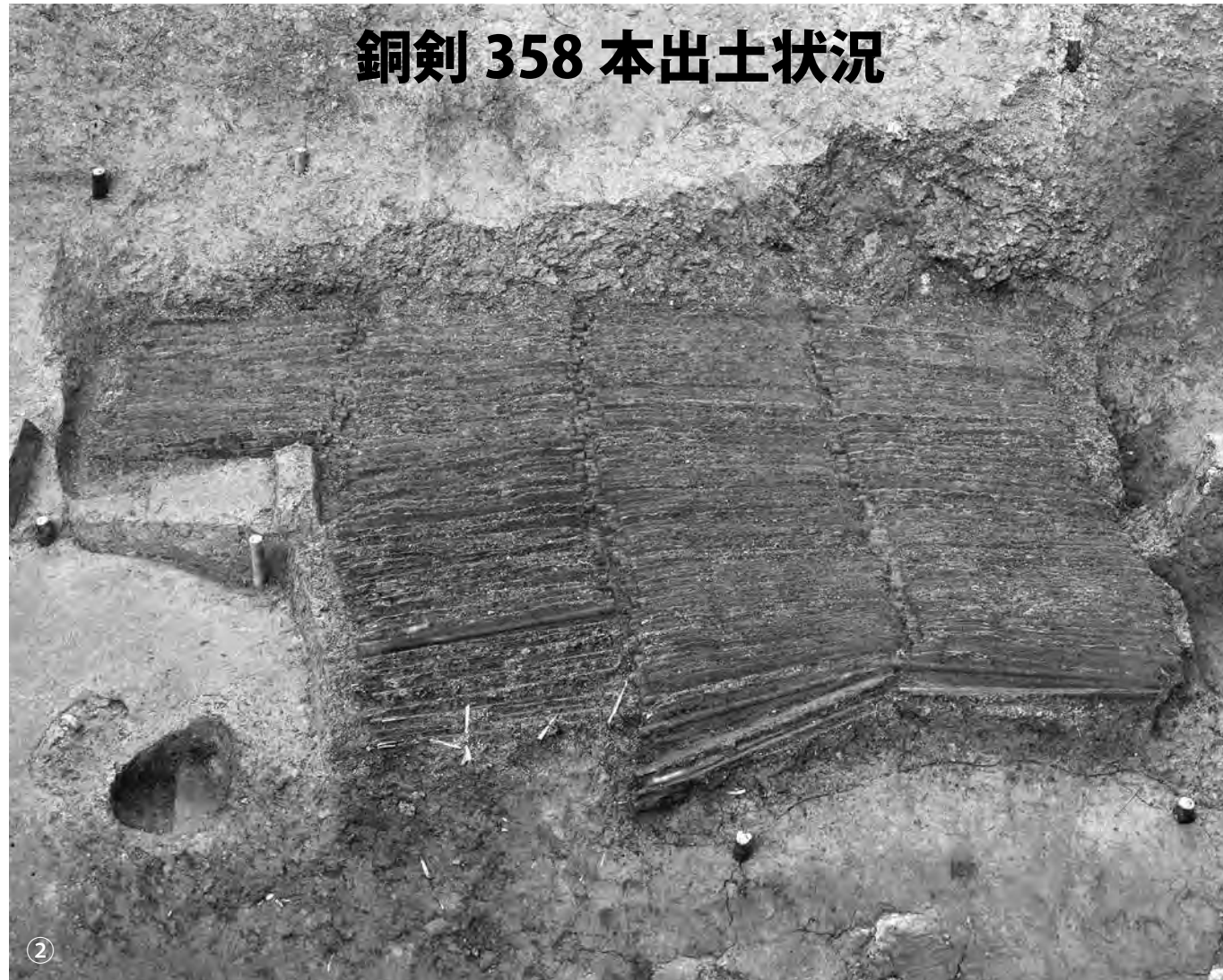
F. 鉛同位体比と成分分析



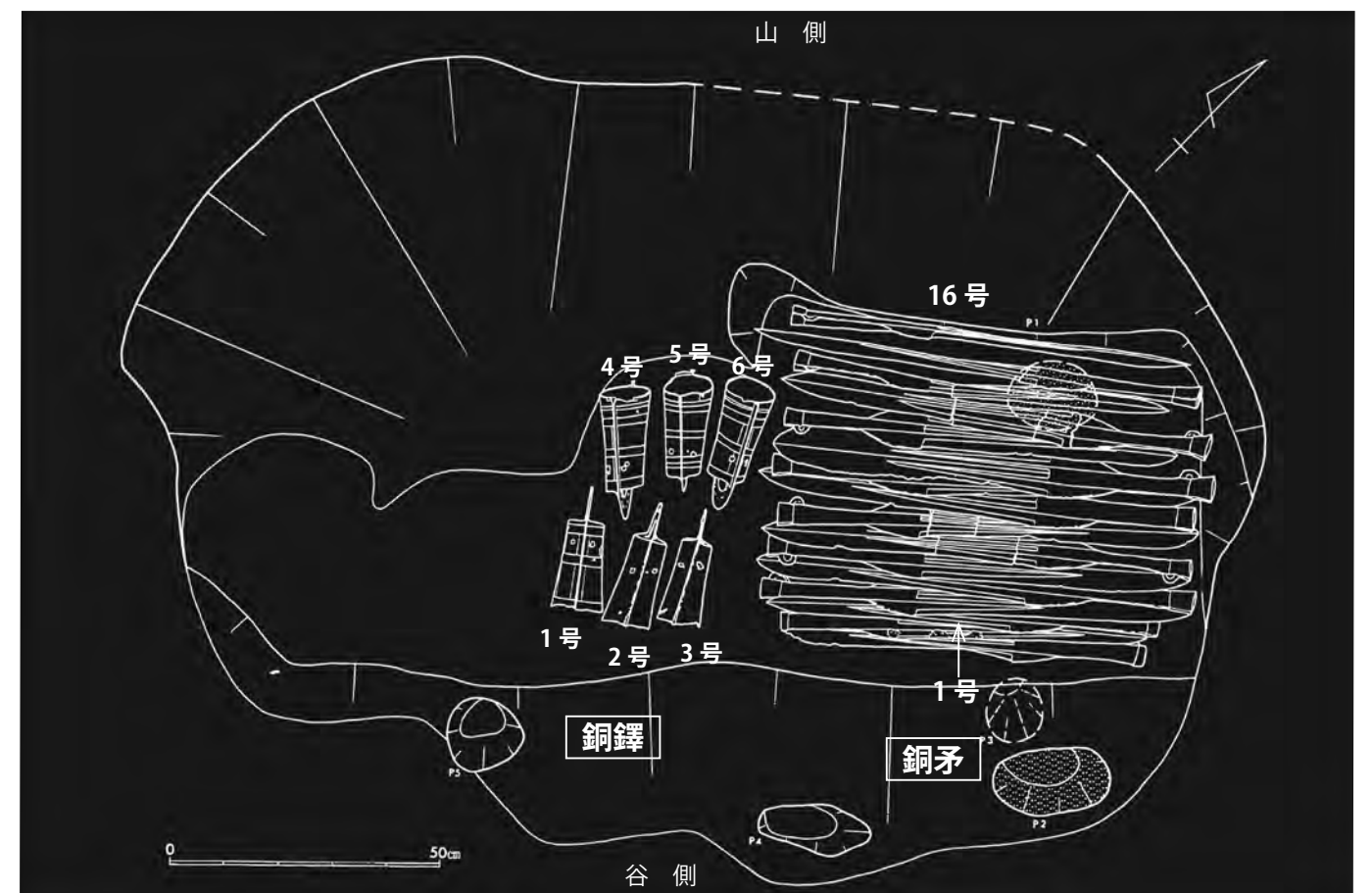
G. 荒神谷銅剣と中細形C類銅剣



銅剣 358 本出土状況



銅鐸 6 個・銅矛 16 本出土状況





銅剣の茎に刻まれた「×」印 (D17) ④



剣身最短 C93

剣身最長 C109

⑤



研磨がおこなわれた銅剣 (A26)

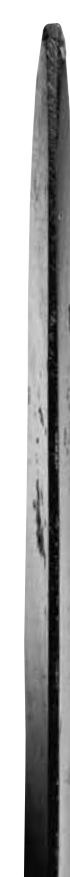
⑥



研磨がおこなわれていない銅剣 (B62)



(2号)



(9号)



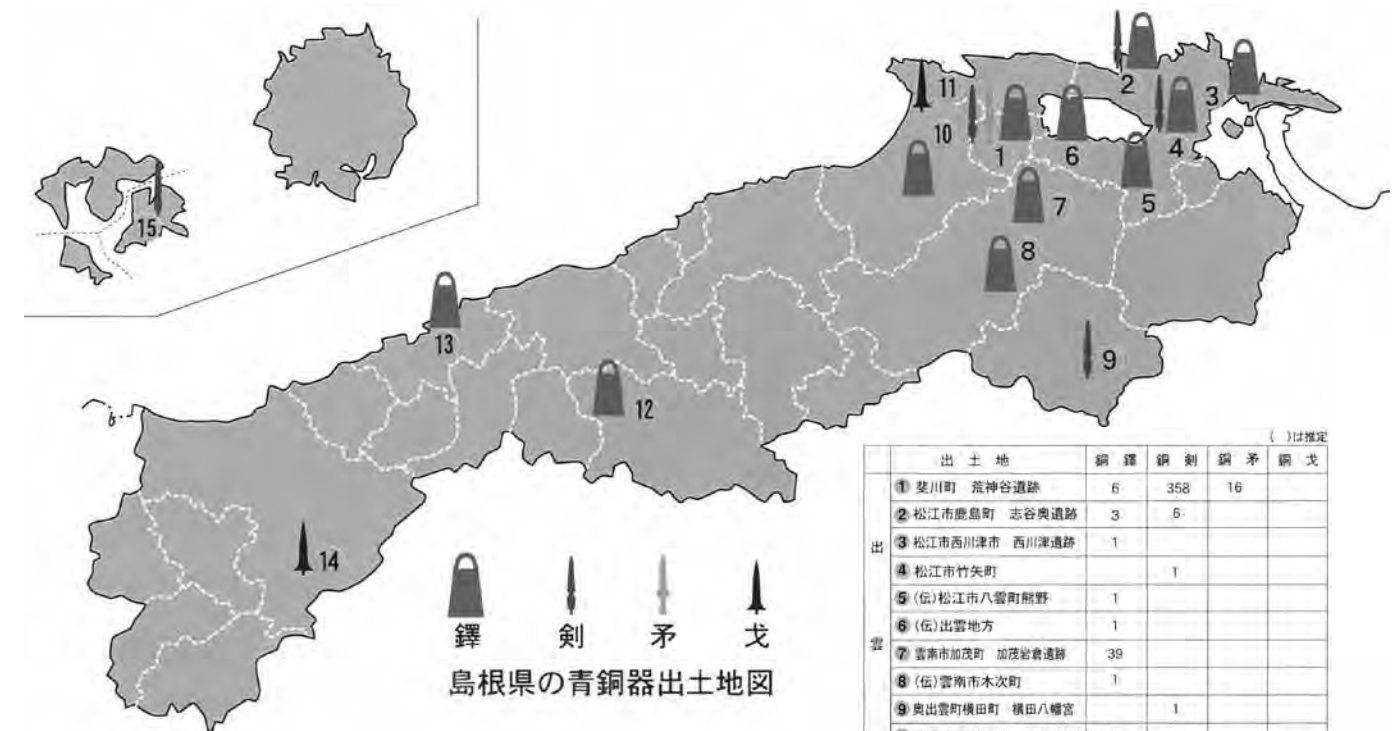
(13号)



荒神谷7号銅矛
研ぎ分けのある銅矛⑧

銅矛の鋒部側面⑦

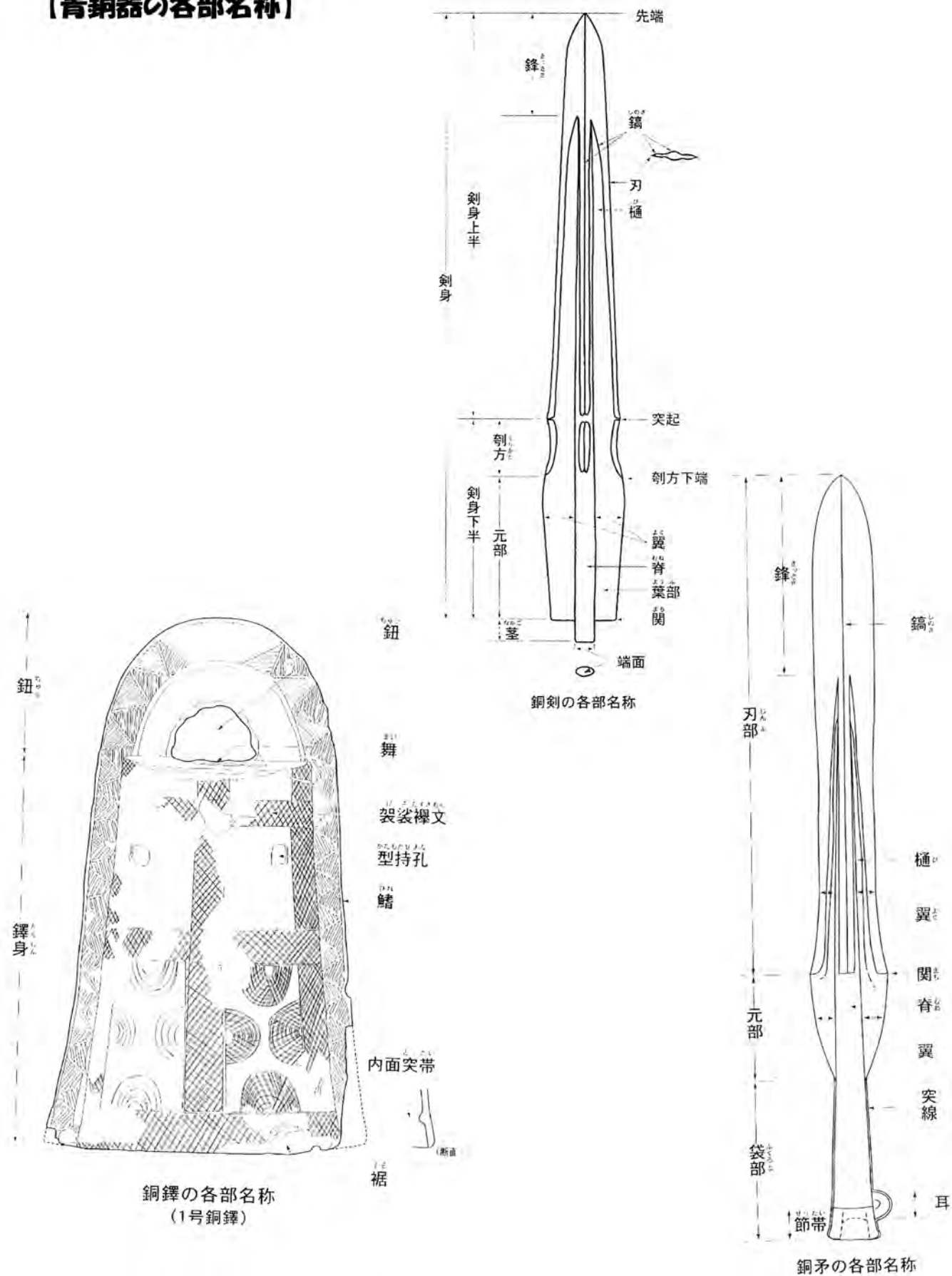
9、13号は先端が平坦に研磨されている



出土地	銅鐸	銅剣	銅矛	銅戈
① 斐川町 荒神谷遺跡	6	358	16	
② 松江市鹿島町 志谷奥遺跡	3	6		
③ 松江市西川津市 西川津遺跡	1			
④ 松江市竹矢町		1		
⑤ (伝)松江市八雲町熊野	1			
⑥ (伝)出雲地方	1			
⑦ 雲南市加茂町 加茂岩倉遺跡	39			
⑧ (伝)雲南市木次町	1			
⑨ 奥出雲町横田町 横田八幡宮		1		
⑩ 出雲市東林木町 青木遺跡	1			
⑪ 出雲市大社町 命主神社				1
⑫ 松江市西川津町 西川津遺跡	1			
⑬ 邑南町石見町 中野飯屋遺跡	2			
⑭ 浜田市上府町 城山遺跡	2			
⑮ 益田市匹見町 水田ノ上遺跡				1
⑯ 隠岐郡海士町 竹田遺跡		1		
⑰ (伝)島根県		1		
合 計	58	371	16	2
総 計		445		

島根県の青銅器出土一覧表

【青銅器の各部名称】



弥生時代前期 (Ⅰ期)	弥生時代中期 (Ⅱ期)	弥生時代後期 (Ⅲ期)	弥生時代後期 (Ⅳ期)	弥生時代後期 (Ⅴ期)
銅 矛 細形Ⅰ式(檀岡・田端) 0 50cm	銅 矛 細形Ⅱ式(佐賀・久里) 中細形Ⅲ類(島根・荒神谷) 中細形Ⅳ類(高知・波介) 0 50cm	銅 矛 細形Ⅰ式(檀岡・田端) 中細形Ⅱ類(大分・速) 中細形Ⅲ類(島根・荒神谷) 中細形Ⅳ類(高知・波介) 平形Ⅰ式(香川・風谷) 平形Ⅱ式(愛媛・垣添) 中広形Ⅲ類(島根・荒神谷) 中広形Ⅳ類(徳島・源田) 0 50cm	銅 剣 細形Ⅰ式(檀岡・田端) 中細形Ⅱ類(大分・速) 中細形Ⅲ類(島根・荒神谷) 中細形Ⅳ類(高知・波介) 平形Ⅰ式(香川・風谷) 平形Ⅱ式(愛媛・垣添) 中広形Ⅲ類(島根・荒神谷) 中広形Ⅳ類(徳島・源田) IV-1式(島根・佐賀) IV-2式(島根・佐賀) IV-3式(和歌山・桑谷) 0 50cm	銅 鐙 IV-3式(和歌山・桑谷) 0 50cm

銅矛・銅剣・銅鐙の移り変わり

『古代出雲文化展図録』より

写真提供
①～⑥、⑧：島根県埋蔵文化財調査センター
⑦：島根県教育委員会



武器形青銅器使用の一例「国立歴史民俗博物館」『倭国乱る』より

(358年)

銅剣出土の謎に迫る!!

荒神谷青銅器フォーラム

—荒神谷遺跡青銅器発見 35 周年記念—

令和元(2019)年7月14日発行

発行者:特定非営利活動法人 出雲学研究所